

平成 2 9 年 度

事 業 報 告 書

社会福祉法人茅ヶ崎市社会福祉事業団

目 次

本部事務局	1
つつじ学園	8
かめっこくらぶ	23
ふれあい活動ホーム赤羽根	29
ふれあい活動ホームあかしあ	41
ふれあい活動ホーム第2あかしあ	49
あっとほ一む小和田	58
相談支援センターつみき	61
ぐっじょぶ矢畑	66
福祉会館	71

茅ヶ崎市社会福祉事業団事業報告

1 事業の概要

(1) 経営理念

私たちは、きわめて公益性の高い社会福祉法人として、誰もが人として尊ばれ、愛する地域で自分らしく生活できる社会づくりに貢献します。

(2) 経営方針

ア 一人ひとりの人権を尊重し、個々の特性とニーズに即した、心のかよいあうサービスを提供します。

イ 信頼される社会福祉法人として、茅ヶ崎市との連携を下に地域課題の解決に取り組みます。

ウ より質の高いサービスを提供できるよう、職員の資質を向上させ、組織体制を強化します。

エ 事業の継続的な改善・見直しを実施し、活力ある法人経営と効率的な事業経営により、経営基盤を強化します。

オ 関係法令や社会規範の理解・遵守を徹底するとともに、個人情報の保護と透明性の高い法人経営を推進し、利用者・地域社会の信頼に応えます。

(3) 事業種別

ア 指定管理者事業

名 称	事 業 種 別	指定管理期間
つつじ学園	児童発達支援センター 児童発達支援 保育所等訪問支援	平成 28 年 4 月 1 日 ～平成 32 年 3 月 31 日
ふれあい活動ホーム赤羽根	就労移行支援 就労継続支援B型	
ふれあい活動ホームあかしあ	生活介護	
ふれあい活動ホーム第2あかしあ	就労継続支援B型	
かめっこくらぶ（東海岸・松が丘）	障害児日中一時支援	
福祉会館	会館管理事業	平成 27 年 4 月 1 日 ～平成 31 年 3 月 31 日

イ 自主事業

名 称	事 業 種 別	指定日
あっとほーむ小和田（松が丘）	共同生活援助	平成 24 年 7 月 1 日指定 *松が丘 平成 26 年 1 月 5 日開所
相談支援センターつみき	障害児相談支援 特定相談支援	平成 24 年 10 月 1 日指定
ぐっじょぶ矢畑	就労継続支援B型	平成 29 年 4 月 1 日指定

ウ 委託事業

名 称	事 業 種 別	指定日
相談支援センターつみき	茅ヶ崎市相談事業	平成 24 年 10 月 1 日指定

(4) 茅ヶ崎市との協定書等について

締結日	名称
平成 29 年 4 月 1 日	茅ヶ崎市障害児通所施設に関する年度協定書
平成 29 年 4 月 1 日	茅ヶ崎市障害者ふれあい活動ホームに関する年度協定書
平成 29 年 4 月 1 日	茅ヶ崎市福祉会館に関する年度協定書

2 管理・運営

(1) 理事会の開催状況

ア 平成 29 年度第 1 回理事会

(ア) 日時 平成 29 年 6 月 8 日（木） 午後 3 時 25 分から午後 5 時 25 分まで

(イ) 場所 ぐっじょぶ矢畑 2 階

(ウ) 審議案

報告第 1 号 専決処分の報告 平成 28 年度社会福祉法人茅ヶ崎市社会福祉事業団第六次補正予算について

報告第 2 号 専決処分の報告について 社会福祉法人茅ヶ崎市社会福祉事業団ぐっじょぶ矢畑運営規程について

報告第 3 号 理事長及び業務執行理事の職務の執行状況について

報告第 4 号 社会福祉法人茅ヶ崎市社会福祉事業団中期経営改善計画の進捗・検討状況について

議案第 1 号 平成 28 年度社会福祉法人茅ヶ崎市社会福祉事業団事業報告について

議案第 2 号 平成 28 年度社会福祉法人茅ヶ崎市社会福祉事業団会計決算について

議案第 3 号 平成 29 年度社会福祉法人茅ヶ崎市社会福祉事業団第一次補正予算について

議案第 4 号 社会福祉法人茅ヶ崎市社会福祉事業団規程の制定について

議案第 5 号 理事及び監事の報酬等の総額について

議案第 6 号 理事及び監事並びに評議員の報酬等の支給の基準について

議案第 7 号 理事候補者について

議案第 8 号 監事候補者について

議案第 9 号 評議員選任候補者の推薦について

議案第 10 号 社会福祉法人茅ヶ崎市社会福祉事業団評議員選任・解任委員会の招集について

議案第 11 号 社会福祉法人茅ヶ崎市社会福祉事業団定時評議員会の招集について

議案第 12 号 社会福祉法人茅ヶ崎市社会福祉事業団臨時理事会の招集について

以上報告 4 件、議案 12 件は審議の結果、異議なく承認された。

イ 平成 29 年度第 2 回理事会

(ア) 日時 平成 29 年 6 月 27 日（火） 午後 1 時 25 分から午後 2 時 00 分まで

(イ) 場所 茅ヶ崎市役所分庁舎 5 階 E 会議室

(ウ) 審議案

議案第 1 号 理事長及び副理事長の選定について

議案第 2 号 社会福祉法人茅ヶ崎市社会福祉事業団規程について

報告第 1 号 評議員選任・解任委員会について

以上報告 1 件、議案 2 件は審議の結果、異議なく承認された。

ウ 平成 29 年度第 3 回理事会

(ア) 日時 平成 29 年 11 月 16 日（木） 午後 3 時 55 分から午後 5 時 10 分まで

(イ) 場所 ぐっじょぶ矢畑 2 階

(ウ) 審議案

報告第 1 号 理事長及び業務執行理事の職務の執行状況の報告について

報告第 2 号 社会福祉法人茅ヶ崎市社会福祉事業団中期経営改善計画の進捗、検討状況について

議案第 1 号 社会福祉法人茅ヶ崎市社会福祉事業団規程について

議案第 2 号 社会福祉法人茅ヶ崎市社会福祉事業団第二次補正予算について

議案第3号 ふれあい活動ホーム赤羽根の給食提供及び就労支援事業について
議案第4号 社会福祉法人茅ヶ崎市社会福祉事業団臨時評議員会の招集について
以上報告2件、議案4件は審議の結果、異議なく承認された。

エ 平成29年度第4回理事会

(ア) 日時 平成30年3月19日(月) 午後3時55分から午後5時25分まで

(イ) 場所 ぐっじょぶ矢畑2階

(ウ) 審議案

報告第1号 利用者アンケートの結果について

報告第2号 社会福祉法人茅ヶ崎市社会福祉事業団要綱について

報告第3号 理事長及び業務執行理事の職務の執行状況の報告について

議案第1号 平成29年度社会福祉法人茅ヶ崎市社会福祉事業団第三次補正予算について

議案第2号 社会福祉法人茅ヶ崎市社会福祉事業団規程について

議案第3号 平成30年度社会福祉法人茅ヶ崎市社会福祉事業団事業計画について

議案第4号 平成30年度社会福祉法人茅ヶ崎市社会福祉事業団予算について

議案第5号 社会福祉法人茅ヶ崎市社会福祉事業団平成29年度第3回(3月)評議員会の招集について

以上報告3件、議案5件は審議の結果、異議なく承認された。

(2) 評議員会の開催状況

ア 平成29年度第1回評議員会(定時評議員会)

(ア) 日時 平成29年6月26日(月) 午後3時25分から午後5時25分まで

(イ) 場所 ぐっじょぶ矢畑1階

(ウ) 審議案

報告第1号 平成28年度社会福祉法人茅ヶ崎市社会福祉事業団事業報告について

報告第2号 社会福祉法人茅ヶ崎市社会福祉事業団中期経営改善計画の進捗、検討状況について

議案第1号 平成28年度社会福祉法人茅ヶ崎市社会福祉事業団会計決算について

議案第2号 平成29年度社会福祉法人茅ヶ崎市社会福祉事業団第一次補正予算について

議案第3号 理事及び監事の報酬等の総額について

議案第4号 理事及び監事並びに評議員の報酬等の支給の基準について

議案第5号 理事の選任について

議案第6号 監事の選任について

以上報告2件、議案6件は審議の結果、異議なく承認された。

イ 平成29年度第2回評議員会

(ア) 日時 平成29年11月24日(木) 午後3時55分から午後4時35分まで

(イ) 場所 ぐっじょぶ矢畑1階

(ウ) 審議案

報告第1号 社会福祉法人茅ヶ崎市社会福祉事業団中期経営改善計画の進捗、検討状況について

報告第2号 ふれあい活動ホーム赤羽根の給食提供及び就労支援事業について

議案第1号 社会福祉法人茅ヶ崎市社会福祉事業団第二次補正予算について

以上報告2件、議案1件は審議の結果、異議なく承認された。

ウ 平成29年度第3回評議員会

(ア) 日時 平成30年3月29日(木) 午後3時55分から午後5時10分まで

(イ) 場所 ぐっじょぶ矢畑1階

(ウ) 審議案

報告第1号 利用者アンケートの結果について

議案第1号 平成29年度社会福祉法人茅ヶ崎市社会福祉事業団第三次補正予算について

議案第2号 理事、監事及び評議員の報酬等に関する規定の一部改正について

議案第3号 理事及び監事の報酬等の総額について

議案第4号 平成30年度社会福祉法人茅ヶ崎市社会福祉事業団事業計画について

議案第5号 平成30年度社会福祉法人茅ヶ崎市社会福祉事業団予算について

以上報告1件、議案5件は審議の結果、異議なく承認された。

(3) 職員配置（平成30年3月31日現在）

職名	人員	備考
事務局長	1	副理事長兼務
事務員	2	

(4) 職員研修

職員のスキルアップを目的として研修会等に参加した。

研修会などの名称	主催	日数	延人数
障害者の個人情報とプライバシー	神奈川県障害者作業所連絡会	1	1
接遇・マナー研修	神奈川県社会福祉協議会	1	2
新任福祉施設等職員合同研修	神奈川県社会福祉協議会	1	2
社会福祉法人会計簿記研修入門・初級編	神奈川県社会福祉協議会	3	2
社会福祉法人会計簿記研修中級編	神奈川県社会福祉協議会	3	1
福祉職員キャリアパス対応生涯研修（初任者編）	神奈川県社会福祉協議会	2	2
福祉職員キャリアパス対応生涯研修（チームリーダー編）	神奈川県社会福祉協議会	2	1
アサーション研修	神奈川県社会福祉協議会	1	1
サービス管理責任者研修（介護）	神奈川県社会福祉協議会	2	1
相談支援従事者現任研修	神奈川県	3	2
ファシリテーション研修	神奈川県社会福祉協議会	1	1
接遇リーダー研修	神奈川県社会福祉協議会	2	1
コーチング研修	神奈川県社会福祉協議会	2	1
社会保険事務講習	神奈川県保険協会	1	1
エルダー研修	神奈川県社会福祉協議会	1	1
神奈川県サービス管理責任者補足研修	かながわ障害ケアマネジメント従事者ネットワーク	2	1
社会福祉法人の経営労務管理体制強化研修 経営層向け	神奈川県	1	1
社会福祉法人の経営労務管理体制強化研修 実務担当者向け	神奈川県	3	2
新人行動力強化研修	神奈川県社会福祉協議会	1	2
トップセミナー	神奈川県社会福祉協議会	1	1

プレマネジャー研修	神奈川県社会福祉協議会	1	1
企業のための「働き方改革」対応セミナー	神奈川県労働局	1	1
専門性を向上させる研修（労務管理）	全国社会福祉事業団協議会	1	1
スーパーバイザー研修	神奈川県社会福祉協議会	4	1
障害福祉施設等危機管理講習会	神奈川県	1	1
安全運転管理者法定講習	神奈川県公安委員会	1	2
	合計	43	34

(5) 会議等

法人内事業所間の連携、情報共有等を目的とした会議のほか、中期経営改善計画に掲げる重点計画を遂行するため、7つのプロジェクトチームを設置し、各チーム会議で事業の実現、実施の検討を行った。

また、外部会議等にも参加し福祉事業に関連する情報を収集した。

ア 内部会議

会議の名称	回数
施設長会議	5
新規事業プロジェクトチーム会議	0
広報プロジェクトチーム会議	9
防災プロジェクトチーム会議	7
人材育成プロジェクトチーム会議	11
実践研究発表会プロジェクトチーム会議	10
業務精査・見直しプロジェクトチーム会議	6
コンプライアンスプロジェクトチーム会議	8

イ 外部会議等

会議の名称	回数
県内事業団総務担当課長会議	1
障害福祉施設事業所団体説明会	1
社会福祉法人指導監査説明会	1
福祉のしごとフェア	1
茅ヶ崎市との打ち合わせ	8

(6) 業務の概要

主として理事会及び評議員会に関すること、定款、規程等の制定及び改廃に関すること、事業計画、予算、事業報告、決算等の策定、各事業実施の調整に関すること及び職員の人事、給与、研修等に関する業務を行った。

(7) 行事

事業計画に基づき次のとおり実施した。

実施日	行事内容
8月11日	ふれあい交流会（夏祭り）
10月4日	ふれあい合同スポーツ大会
1月27日	実践・研究発表会 (1) 基調講演 幸町クリックなごみ 臨床心理士 川並かおる氏 「発達障がいの人たちの体験世界」

	(2) 発表 相談支援センターつみき 「課題解決はチームの力 ～Aくんはただいま充電中～」
--	--

(8) 職員への助成制度

ア 資格取得支援の助成

取得資格名	人数
精神保健福祉士	1

イ インフルエンザ予防接種料の助成

41名の申請に基づき助成（総額 81,200 円）した。

(9) 防災

防災プロジェクトチームが主となり、緊急職員参集マニュアル、非常災害対策計画及び防災計画を策定した。

(10) その他の業務

実施日	業務内容
4月 1日	部分休業承認
4月 3日	辞令交付式
6月 20日	産前産後休暇承認
6月 20日	辞令交付式（産休育休代替任期付職員）
7月 3日	産前産後休暇承認（非常勤）
7月 3日	辞令交付式（昇任）
9月 30日	育児休業承認
10月 3日	辞令交付式（育休代替任期付職員期間延長）
10月 17日	育児休業承認（非常勤）

3 平成 29 年度の重点目標の達成状況と評価

	重点目標	達成状況と評価
(1)	事業の拡充 新規及び既存事業の拡充について、事業検討チームで具体的に検討し実施する。	チームとして検討の場は設けなかったが、利用者のニーズに沿った暮らしの場が提供できるようグループホームのサテライトを増設する準備を行った。
(2)	中期経営改善計画の推進と進行管理 中期経営改善計画に基づく事業の推進と進行管理を行い、効果的に事業を実施する。	進行管理の一環として、各プロジェクトチームが 28 年度中に実施した状況、成果、課題等をまとめ、6 月の理事会・評議員会にて報告を行い、28 年度から 29 年度上半期までの各事業所の取り組み状況を 4 段階にて評価し、11 月の理事会・評議員会で報告を行った。 引き続き各重点計画の達成に向け、施設長やチームリーダーを中心に事業を実施し、検討することができた。
(3)	利用者アンケートの実施 平成 29 年度前期にアンケートを実施し、その結果	直接支援を行っている 7 事業所の利用者・保護者を対象に 12 月

	を経営改善計画の見直しに反映させる。	に実施した。配布総数 265 件に対して回答数は 163 件で、回収率は 62%であった。 意見・要望などを踏まえ、法人の考え方や方向性を見極めたうえで経営改善計画の見直しに反映させるか検討していく。
(4)	本部事務局経費分担基準の見直し 新規事業所の開設に伴い、現行の事務局経費分担基準を見直す。	新規事業所の経営が軌道に乗り、同基準において前年度との比較ができるまで現行の分担基準を継続することとし、基準の算出にあたり、使用するデータ等の検討を行った。

つつじ学園事業報告

1 事業の概要

(1) 基本方針

児童福祉法の理念に基づき、ひとりひとりの児童を尊重し、愛する地域で自分らしく生活できるように、子どものニーズに寄り添った支援を行い、早期療育の定着を図ることにより、基本的生活能力を高め、情緒豊かな人間性を養う。

ア 児童発達支援センター（単独通園、週5日）＊通園バスあり

保護者から離れて療育を積み重ねていく中で、今までにない人間関係が芽生え、様々な活動を経験することで、地域社会に向かう力をつける。また、保護者は子どもと離れ、客観的に子どもを見つめる時間を過ごす中から自身の生活を振り返り、もう一度子どもを捉え直す機会を持つ。さらに、肢体不自由児の受け入れをし、子どもの特性に合った環境で支援を行う。

イ 児童発達支援事業（親子通園、週2～3日）

心身の発達に遅れやつまずきがある子どもたちが、保護者とともに友達や職員といろいろな遊びや活動に取り組み、経験を積み重ねていく。また、身の回りのことを自分でできるように支援する。保護者は、子どもと一緒に療育に参加し、より良い支援のあり方について職員と一緒に考えとともに、保護者同士で交流を深め、共に考え、助け合う場となることを目指す。

ウ 保育所等訪問支援事業

保育園等に在籍している学園児、卒退園児を対象に、心理士、訪問支援員が保育所等を訪問し、集団生活の支援を行う。子どもへの直接支援、保護者への子どもの様子の報告のほか、効果的な関わり方や提示方法などを関係機関等で共有し、子どもの特性を踏まえた支援を目指す。

(2) 施設の概要

ア 定員	児童発達支援センター	定員	30人
	児童発達支援事業	一日利用定員	20人

イ 位置と規模

(ア)所在地	茅ヶ崎市松が丘二丁目8番51号
(イ)敷地面積	1,815㎡
(ウ)建物延面積	1,024㎡
(エ)建物構造	鉄筋コンクリート造り2階建

ウ 事業所指定

児童発達支援センター

(ア)法的根拠	児童福祉法
(イ)事業指定者	神奈川県知事
(ウ)事業所番号	1452400367
(エ)指定日	平成24年4月1日

エ 児童発達支援事業

(ア)法的根拠 児童福祉法
 (イ)事業指定者 神奈川県知事
 (ウ)事業所番号 1412400127
 (エ)指定日 平成24年4月1日

オ 保育所等訪問支援事業

(ア)法的根拠 児童福祉法
 (イ)事業指定者 神奈川県知事
 (ウ)事業所番号 1452400367
 (エ)指定日 平成24年4月1日

2 管理・運営

(1)職員配置(平成30年3月31日現在)

ア 正規職員

*保育士1名は育児休業取得中

区分	施設長	施設長 補佐	栄養士	保育士 指導員	計
人数	1	4	1	9	15

イ 非常勤職員

職 種	勤務日数	勤務時間	人数	備考
給食調理員	週3日	5.0	1	
	週2日	5.0	1	
保育士 指導員	週5日	6.0	5	
	週5日	7.5	9	
看護師	週2～3日	6.0	3	1日につき1～2名の配置
運転員兼用務員	週3日・週2日	7.5・3.5	1	
	週2日・週3日	7.5・3.5	1	
事務員	週3日	6.0	1	

ウ 非常勤嘱託専門職員

職 種	人数
嘱託医(小児科)	1
嘱託医(精神科)	1
理学療法士(PT)	1
作業療法士(OT)	1
言語聴覚士(ST)	2
臨床発達心理士	1
臨床心理士	2
計	9

(2)職員研修、会議

各職員は、指導訓練の充実に向けて必要と認められる研修会に積極的に参加した。また、地域との連

携、情報共有を目的として各種会議に出席した。

児童発達支援センター、児童発達支援事業間及び職員の連絡調整を図るため、月1回職員会議を実施した。子どもの指導に関する会議は、事業ごとに月1回の定例会に加え、必要に応じて随時実施した。

<外部研修>

研 修 会 等 の 名 称	主 催	日数	延人数
心身障害児保育研究会 定例会	心身障害児保育研究会	7日	7名
制度改正に関わる事業所説明会	神奈川県	1日	2名
避難行動要支援者名簿の運用に関する説明会	茅ヶ崎市	1日	1名
平成29年度特別支援教育研究会	茅ヶ崎市教育委員会	1日	1名
医療的ケアを必要とする子どもの支援研修会	神奈川県立こども医療センター	1日	1名
平成29年度神奈川県立茅ヶ崎養護学校実践研究会	神奈川県立茅ヶ崎養護学校	1日	1名
平成29年度茅ヶ崎市施設連絡会研修	茅ヶ崎市施設連絡会	1日	14名
平成29年度障害者事業所基本研修会	神奈川県障害者地域作業所連絡協議会	1日	1名
平成29年度特定給食施設全体講習会	地域保健課	1日	1名
知的障がいの人ってどんな感じなの？	茅ヶ崎地区自閉症児親の会	1日	2名
児童福祉施設給食関係者研修会	神奈川県保育所栄養士会	1日	1名
平成29年度食生活支援担当者研修会	地域保健課	1日	1名
平成29年度特定給食施設等種別講習会	地域保健課	1日	1名
平成29年度児童福祉施設におけるクッキング講座	地域保健課	1日	1名
合 計		20日	35名

<内部研修>

嘱託医師による研修会	テーマ	延人数
平成29年 4月 4日(小児科:長岡Dr.)	ダイアップについて	29名
平成29年 7月 6日(精神科:朝倉Dr.)	発達障害について	29名
平成29年11月30日(精神科:朝倉Dr.)	発達障害について	29名
合 計		87名

<会議>

会 議 の 名 称	主 催	日数	延人数
福祉避難施設情報交換会	茅ヶ崎市障害福祉課	1日	1名
平成29年度茅ヶ崎市特別支援教育担当者会	茅ヶ崎市教育委員会	1日	1名
茅ヶ崎市障害者施設連絡会総会	茅ヶ崎市施設連絡会	1日	1名
茅ヶ崎市障害者施設連絡会定例会	茅ヶ崎市施設連絡会	2日	2名
平成29年度県内公立障害者通園施設連絡協議会	県内公立障害児通園施設連絡協議会長	3日	3名
茅ヶ崎市自立支援協議会代表者会議	茅ヶ崎市自立支援協議会	2日	2名
茅ヶ崎市自立支援協議会 運営会議	茅ヶ崎市自立支援協議会	3日	3名
平成29年度第1回療育連絡会	茅ヶ崎市こどもセンター	1日	1名
茅ヶ崎市自立支援協議会そだちの支援部会ワーキンググループ	茅ヶ崎市自立支援協議会	4日	4名
ケース会議	茅ヶ崎市保健所	1日	1名
ケース会議	相談支援センターつみき	1日	1名
ケース会議	茅ヶ崎市教育委員会	3日	5名
児童発達支援調整会議	茅ヶ崎市こどもセンター	3日	18名
合 計		26日	43名

(3)利用者の状況

ア 児童発達支援センター

週5日の単独通園を通じて、保護者から離れて身辺面や社会性、コミュニケーションの発達を促すことを目的に継続的な取り組みを行った。行動のコントロールが難しい子どもや未歩行、また姿勢運動に介助が必要な子どもについては、必要に応じて個別対応職員を配備し、子どもの様子や発達段階に合わせた支援を行った。子どもの様子や関わり方については、面談や日々の連絡を通し家庭と共有した。

円滑な就学に向け、集団適応を図ること、子どもへの支援内容を確認することを目的に、保育所等訪問支援事業を利用し、一般の公立保育園への協力を得て集団での「過ごし」を体験した。

イ 児童発達支援事業

母子通園の子どもを中心に発達段階や特性に合わせたグループを編成し、年少前の早期から週2日～週3日の療育を積み重ねるように実施することで、保護者支援、子どもの生活リズムの確立、日常生活動作の向上、情緒面の安定を図った。

幼稚園や保育所等の他集団を併用する発達障害児を主に対象とするグループでは、保育所等訪問支援員と共に臨床心理士が適宜同行し、専門的な見解に基づいた支援を実施した。また保育所、保護者との情報共有を密に行った。

年度の後半に待機児が出たため、月2回の療育を行う午後グループを設定し、保護者の不安や悩みに添いながら、子どもとの関わり方を共有し、支援する機会とした。

ウ 保育所等訪問支援事業

在園児、退園児を対象に、保育所等における集団適応、後方支援、情報の共有を目的に実施した。事前に保護者からのニーズを把握し、子どもの状況に合った頻度での訪問を実施した。訪問後は、方針会議を開き、大きな集団での「過ごし」について、保育所等、保護者、保育所等訪問支援員、心理士、クラス担当で課題を共有し、連携を図った。

(4)各種利用状況資料

ア 利用状況

児童発達支援センター	29年度利用状況	28年度利用状況	年度対比増減	年度対比率
実日数	229	230	-1	99.6%
総利用設定日数	8,936	8,153	783	109.6%
総実利用者数	41	39	2	105.1%
入園	18	23	-5	78.3%
退園	22	16	6	137.5%
延出席数	7,538	7,020	518	107.4%
1日平均出席数	32.9	30.5	2.4	107.9%
出席率	84.40%	86.1%	-1.7%	98.0%

児童発達支援事業	29年度利用状況	28年度利用状況	年度対比増減	年度対比率
実日数	230	232	-2	99.1%
総利用設定日数	4,029	3,609	420	111.6%
総実利用者数	45	45	0	100.0%
入園	26	26	0	100.0%
退園	23	26	-3	88.5%
延出席数	2,778	2,546	232	109.1%
1日平均出席数	12.1	11.0	1.1	110.3%
出席率	69.00%	70.5%	-1.5%	97.8%

イ 契約状況

児童発達支援センター	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	平均
初日在籍数(人)	23	39	39	40	39	39	39	39	40	39	39	39		
入園(人)	16	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	18	
退園(人)	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	20	22	
月末現在(人)	39	39	40	39	39	39	39	40	39	39	39	19	450	37.5

児童発達支援事業	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	平均
初日在籍数(人)	19	34	34	36	36	36	36	41	42	42	44	44		
入園(人)	15	0	2	0	0	0	6	1	0	2	0	0	26	
退園(人)	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	22	23	
月末現在(人)	34	34	36	36	36	36	41	42	42	44	44	22	447	37.3

ウ 年齢構成(平成30年3月31日現在)

児童発達支援センター	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	計	構成比
男	0	0	16	0	16	84.2%
女	0	1	2	0	3	15.8%
計	0	1	18	0	19	100%
構成比	0%	5.3%	94.7%	0%	100%	

児童発達支援事業	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	計	構成比
男	0	2	7	10	0	19	86.4%
女	0	2	0	1	0	3	13.6%
計	0	4	7	11	0	22	100%
構成比	0%	18.2%	31.8%	50.0%	0%	100%	

エ 出席状況

児童発達支援センター

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	平均
実日数	19	20	22	19	18	20	21	20	16	19	19	16	229	19.1
延在籍数	741	780	868	760	702	780	897	800	635	741	608	624	8,936	744.7
出席数	607	669	765	675	540	668	677	680	550	614	542	551	7,538	628.2
1日当出席数	31.9	33.5	34.8	35.5	30.0	33.4	32.2	34.0	34.4	32.3	28.5	34.4		32.9
出席率	81.9%	85.8%	88.1%	88.8%	76.9%	85.6%	75.5%	85.0%	86.6%	82.9%	89.1%	88.3%		84.4%

オ 児童発達支援事業

肢体不自由児・重症心身障害児グループ(週3日)

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	平均
実日数	10	12	13	12	12	12	12	12	9	11	12	9	136	11.3
延在籍数	30	36	40	40	41	40	38	53	40	48	52	40	498	41.5
出席数	23	19	14	14	23	29	26	30	21	31	33	29	292	24.3
1日当出席数	2.3	1.6	1.2	1.2	1.9	2.4	2.2	2.5	2.3	2.5	2.8	3.2		2.15
出席率	76.7%	52.8%	35.0%	35.0%	56.1%	72.5%	68.4%	56.6%	52.5%	64.6%	63.5%	72.5%		58.6%

知的障害児Aグループ(週2～3日)

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	平均
実日数	10	9	11	10	9	11	10	11	8	10	9	7	115	9.6
延在籍数	50	45	59	58	54	66	67	77	56	70	63	49	714	59.5
出席数	40	37	42	45	46	51	47	46	40	53	45	41	533	44.4
1日当出席数	4.0	4.1	3.8	4.5	5.1	4.6	4.7	4.2	5.0	5.3	5.0	5.9		4.6
出席率	80.0%	82.2%	71.2%	77.6%	85.2%	77.3%	70.1%	59.7%	71.4%	75.7%	71.4%	83.7%		74.6%

知的障害児Bグループ(週2～3日)

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	平均
実日数	8	11	11	11	10	9	11	10	8	10	10	8	117	9.8
延在籍数	48	66	65	66	60	54	68	70	56	68	69	56	746	62.2
出席数	39	56	46	49	52	34	53	52	44	37	48	45	555	46.3
1日当出席数	4.9	5.1	4.2	4.5	5.2	3.8	4.8	5.2	5.5	3.7	4.8	5.6		4.7
出席率	81.3%	84.8%	70.8%	74.2%	86.7%	63.0%	77.9%	74.3%	78.6%	54.4%	69.6%	80.4%		74.4%

発達障害児Cグループ(週2日)

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	平均
実日数	8	6	10	9	7	9	8	8	7	9	8	7	96	8.0
延在籍数	80	57	96	87	67	86	79	69	61	74	62	59	877	73.1
出席数	44	45	70	57	44	52	41	45	27	39	38	36	538	44.8
1日当出席数	5.5	7.5	7.0	6.3	6.3	5.8	5.1	5.6	3.9	4.3	4.8	5.1		5.6
出席率	55.0%	78.9%	72.9%	65.5%	65.7%	60.5%	51.9%	65.2%	44.3%	52.7%	61.3%	61.0%		61.3%

知的障害児Dグループ(週2～3日)

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	平均
実日数	9	12	10	10	10	9	12	12	7	9	10	7	117	9.8
延在籍数	54	71	64	68	70	60	81	80	47	58	62	47	762	63.5
出席数	30	48	41	54	36	35	38	49	27	35	27	24	444	37.0
1日当出席数	3.3	4.0	4.1	5.4	3.6	3.9	3.2	4.1	3.9	3.9	2.7	3.4		3.8
出席率	55.6%	67.6%	64.1%	79.4%	51.4%	58.3%	46.9%	61.3%	57.4%	60.3%	43.5%	51.1%		58.3%

知的障害児Eグループ(週2日)

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	平均
実日数	7	8	9	9	9	8	9	9	6	9	8	7	98	8.2
延在籍数	28	32	36	36	36	32	55	63	42	62	56	49	527	43.9
出席数	22	28	30	26	25	31	44	50	33	51	45	45	430	35.8
1日当出席数	3.1	3.5	3.3	2.9	2.8	3.9	4.9	5.6	5.5	5.7	5.6	6.4		4.4
出席率	78.6%	87.5%	83.3%	72.2%	69.4%	96.9%	80.0%	79.4%	78.6%	82.3%	80.4%	91.8%		81.6%

待機児グループA(隔週1日)

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	平均
実日数							2	2	1	2	2	2	11	1.8
延在籍数							2	6	4	6	6	6	30	5.0
出席数							2	4	2	4	4	4	20	3.3
1日当出席数							1.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0		1.8
出席率							100.0%	66.7%	50.0%	66.7%	66.7%	66.7%		66.7%

カ 入園・退園

児童発達支援センター

入園経路	こども センター	総合療育 相談センター	他施設	幼稚園	保育園	発達支援 事業	保健所	家庭	児相	計
人 数	1	0	0	0	0	16	0	1	0	18

退園後の 経 路	学校				保育園	幼稚園	他施設	転居	センタ ー	自宅	その他	計
	支援 学校	支援 級	通常 級	小計								
人 数	8	9	3	20	0	0	0	2	0	0	0	22

児童発達支援事業

入園経路	こども センター	総合療育 相談センター	他施設	幼稚園	保育園	(他)発達 支援事業	保健所	母子 保健	家庭	児相	計
人 数	23	2	0	0	0	1	0	0	0	0	26

退園後の 経 路	学校				保育園	幼稚園	他施設	転居	センタ ー	(他)発達 支援事業	自宅	その他	計
	支援 学校	支援 級	通常 級	小計									
人 数	0	2	3	5	0	2	0	0	15	0	0	0	22

キ 障害の種別（平成30年3月31日現在）

区分	身障手帳				療育手帳					未交付	計	重複
	1級	2級	3級	小計	A1	A2	B1	B2	小計			
児童発達 支援センター	0	0	1	1	0	1	3	2	6	13	19	1
児童発達 支援事業	2	0	0	2	1	0	1	1	3	18	22	1

ク 診断名、疾病

児童発達支援センター（平成30年3月31日現在）

区 分	人数
ダウン症等症候群	1
自閉症スペクトラム	2
そ の 他	3
診断名なし	13
計	19

児童発達支援事業

区 分	人数
ダウン症等症候群	0
自閉症スペクトラム	0
そ の 他	3
診 断 名 な し	19
計	22

(5) 指導訓練の状況

ア 指導方法

(ア) 児童発達支援センター

児童福祉法に基づく認可施設として、茅ヶ崎市より障害児通所給付費の支給決定を受けた就学前の子どもを対象に、身近面の自立や社会性の芽生えなど、障害児をとりまく社会に対応できるよう指導内容の検討を行い実施した。

- a 集団指導を基本とし、個々の児童発達支援計画をもとに障害の状況に合わせた課題を設定した。
- b 専門指導を必要とする子どもを対象に、ニーズに合わせて専門職種の活用を積極的に実施した。
- c 浜須賀保育園との集団交流により、学園児・保育園児相互の社会生活への適応促進を図った。
- d 通園形態は、原則として親子分離で実施した。ただし、新入園児については、園に慣れることと、保護者に園での様子を理解してもらうことを目的に、一定期間親子通園とした。
- e 体験学習として、家庭菜園や季節の行事、店舗での外食、公共の交通機関利用などの活動を取り入れ、家庭だけでは経験しにくい事柄について積極的に挑戦し、発達を促すと共に経験の幅を広げた。

(イ) 児童発達支援事業

児童福祉法に基づき運営を行い、茅ヶ崎市より障害児通所給付費の支給決定を受けた2歳児から就学前の子どもを対象とした。肢体不自由児、重症心身障害児や知的障害児、発達障害児等、障害特性に合わせたグループ分けをし、親子通園の中で保護者支援にも重点を置いた。日常生活動作の確立、社会性の芽生え、保護者の障害への気付きと受容の過程の支援等、指導内容の検討を行いながら事業を実施した。

- a 事業計画に基づき療育指導及び保護者への支援の二つを柱として実施した。
- b 児童発達支援計画に基づき、姿勢運動、生活動作の獲得と向上、コミュニケーションの方法等、個に合わせたねらいを立て、支援を行った。

- c 親子通園を通じて、子どもの行動や考え方の特性を具体的に理解ができるよう保護者と協同して取り組んだ。また、専門職種との話し合いの場を設け、保護者の理解と安定を図った。
- d 各グループのカリキュラムに、理学療法士、作業療法士、臨床発達心理士、臨床心理士、言語聴覚士が参加し、子どもへの直接支援や療育スタッフへの後方支援等を取り入れた。また、臨床心理士によるお話し会の開催や懇談会での出席を通じて、保護者自身や保護者同士の共通の悩みについて、相談支援を行った。
- e 芋掘り・収穫や外食体験に取り組み、体験学習の内容を充実させた。
- f 他集団と併用している子どもについては、保護者の捉えやニーズを事前に把握し、保育所等訪問支援の職員、他集団職員との連絡や保育所等訪問支援の同行を実施し、母集団での適応が円滑になるように小集団での取り組みを確認した。
- g 待機児グループへの支援を月2回、午後に設定した。グループのほか、面談や適宜の電話相談、必要に応じた家庭訪問を行い、途切れのない支援と、保護者の相談支援を軸に実施した。

(ウ) 保育所等訪問支援事業

児童福祉法に基づき平成24年度より児童発達支援センターの事業として実施した。つつじ学園を母集団とする子ども、他集団と併用利用している子どもまたは退園した子どもを対象とした。公立保育園での集団生活体験を通じて、体験の幅を広げた。また、保護者の捉えとニーズを事前に確認し、保育所等への訪問を行った。課題に向けての支援方法や取り組みを保育所等、保護者、保育所等訪問支援員、臨床心理士等で共有し、集団生活の適応支援や相談支援、保育所等への後方支援を実施した。

	29年度	28年度
利用人数	28名	17名
延べ利用回数	69回	53回

イ 職員による指導訓練

(ア) 毎週月曜日から金曜日まで、日課表に基づいて指導訓練を実施した。

(イ) 春季、夏季、年末年始において、他機関との申し送り、通園児の健康管理、家庭内指導及び学園における療育体制の整備のため、次のとおり自宅療育日を設けた。

時 期	期 間
春季	4月3日
夏季	8月14日～18日
年末、年始	12月25日～28日
春季	3月26日～30日

ウ 嘱託医及び専門職員による指導訓練

(ア) 嘱託医

子どもの健康診断及び保護者、職員に対する医学的指導、助言を行った。

区 分	実施日数	集団検診延人数			個別検診延人数		
		センター	事業	計	センター	事業	計
精神科	26				39	23	62
小児科	24	77	41	118	3	4	7
歯 科	2	21	14	35			

(イ) 理学療法士 (PT)

歩行訓練、体幹保持、ストレッチ等の機能訓練や、作業療法士 (OT) とのジョイント指導、子どもの身体状況に合わせて座位保持椅子や補装具の調節を行った。保護者向けストレッチ指導を行った。

(ウ) 作業療法士 (OT)

食事、着替えなどの日常生活動作訓練や遊びを通した道具の使い方、理学療法士 (PT) とのジョイント指導を行った。クラスに入り、担当職員と机や椅子の調整など、環境整備を行った。

(エ) 言語聴覚士 (ST)

言語発達の評価、コミュニケーションについて個別指導を行った。クラスに入り、集団での様子観察、クラス担当への助言を行った。

(オ) 臨床発達心理士、臨床心理士

発達検査の実施や保護者向けの勉強会、お話を実施することで発達についての支援、関わり方について助言を行った。

区分	実施日数	一ヶ月平均実施日数
理学療法士 (PT)	114	9.5
作業療法士 (OT)	98	8.2
言語聴覚士 (ST)	44	3.7
言語聴覚士 (ST)	66	5.5
臨床発達心理士	34	2.8
臨床心理士	89	7.4
臨床心理士	60	5.0

エ 通園バスの運行 (児童発達支援センター)

(ア) 通園バスの円滑な運行に向けて車両を1台増やすとともに、道路事情、利用者の利便性及び運行時間等の効率化を考慮して実施した。

(イ) 運行時間

a 中型バス・シビリアン／32名利用

登園時 8時45分発 10時00分着

降園時 14時30分発 15時50分着 または13時30分発 14時50分着

b 小型ワゴン車・セレナ／6名利用

登園時 8時40分発 10時00分着

降園時 14時30分発 15時50分着 または13時30分発 14時50分着

(ウ) 運行日数及び走行距離は、次のとおりであった。

シビリアン	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	平均
走行距離(km)	626	607	826	757	629	930	751	664	592	742	637	575	8,336	694.7
運行日数	19	19	22	20	17	20	20	18	16	19	19	15	224	18.7
1日平均走行距離(km)	32.9	31.9	37.5	37.9	37.0	46.5	37.6	36.9	37.0	39.1	33.5	38.3		37.2

セレナ	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	平均
走行距離(km)	0	205	911	810	720	820	858	804	653	754	680	645	7,860	714.5
運行日数	0	5	22	17	17	21	21	17	16	18	17	16	187	17.0
1日平均走行距離(km)	0.0	41.0	41.4	47.6	42.4	39.0	40.9	47.3	40.8	41.9	40.0	40.3		42.0

オ 通園バス以外の車両の運行状況

ワゴンR	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	平均
走行距離(km)	324	194	127	59	128	51	128	166	124	155	131	155	1,742	145.2
運行日数	20	17	11	7	11	5	13	15	12	13	14	10	148	12.3
1日平均走行距離(km)	16.2	11.4	11.5	8.4	11.6	10.2	9.8	11.1	10.3	11.9	9.4	15.5		11.8

タント	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	平均
走行距離(km)	533	406	284	277	239	342	234	279	205	144	216	304	3,463	288.6
運行日数	19	16	18	18	16	20	19	19	18	14	17	19	213	17.8
1日平均走行距離(km)	28.1	25.4	15.8	15.4	14.9	17.1	12.3	14.7	11.4	10.3	12.7	16.0		16.3

カ 給食業務

(ア) 給食については、出席した子ども(摂食障害等該当児は除く。)に提供した。

(イ) 献立については、学園の管理栄養士が作成し、調理も行った。アレルギー対応食、ミキサー食の個別の形態食への対応も行った。なお、アレルギー対応食は、医師の指示書を基に提供を開始する前に面談を実施した。

(ウ) 給食数及び栄養量は次のとおりであった。

	給食数	1日当たり給食数
児童発達支援センター	6,706	29.3
児童発達支援事業	2,358	10.4

栄養量・・・目標熱量 420kcal 目標蛋白質 16.0g

提供熱量 479kcal 提供蛋白質 21.3g

推定摂取熱量 453kcal 推定摂取蛋白質 20.2g

キ 学園防災

児童福祉施設最低基準及び学園防災計画に基づき、次のとおり避難訓練を実施した。

実施月日	出火想定場所及び想定地震	参加園児数	参加保護者数	職員数	計
4月20日	調理室、火災	44	21	31	96
5月16日	調理室、火災	44	15	28	87
6月7日	調理室、地震火災	40	10	12	62
7月10日	調理室、地震火災	44	11	32	87

8月21日	給食室、地震、津波警報発令により浜須賀中学校へ避難	37	7	32	76
9月13日	調理室、地震火災	48	12	40	100
9月14日	引き渡し訓練	34	34	25	93
9月15日	引き渡し訓練	11	11	3	25
10月10日	指導室、火災	35	11	35	81
11月17日	調理室、火災	44	4	31	79
12月14日	指導室、地震火災	50	10	32	92
1月17日	調理室、火災	48	11	35	94
2月13日	近隣、地震火災水害	47	12	31	90
3月15日	調理室、火災	33	17	18	68

ク 保護者支援

(ア) 懇談会

学園における指導訓練の内容及び保護者の考え方等について、相互に理解を深め、指導訓練の内容の充実と効率化を高めるため、担当職員と保護者の懇談会を実施した。

	全体懇談会	部屋別懇談会
児童発達支援センター	3回	3回
児童発達支援事業		3回

(イ) 保護者研修会

保護者の療育指導の向上及び障害についての理解を深めるため、次のとおり研修会を実施した。

月 日	研修内容	講師	場所	出席延人数		
				児童発達支援センター	児童発達支援事業	計
10月23日、12月20日	心理お話し会	臨床発達心理士	つつじ学園	9	—	9
5月19日	就学について	市教育委員会 学校教育指導課	つつじ学園	28	2	30
5月29日、6月18、12、13、1922日、7月5日	小学校特別支援学級見学会	市教育委員会 学校教育指導課	松林小、汐見台小、西浜小、今宿小、円蔵小、茅ヶ崎小、梅田小、浜須賀小	43	7	50
6月2日	福祉制度説明会	障害福祉課	つつじ学園	13	27	40
6月2日	試食会	学園栄養士	つつじ学園	12	—	12
6月27日	特別支援学校見学会	市教育委員会 学校教育指導課	県立茅ヶ崎養護学校	22	2	24
6月23、30日	卒園児保護者との懇談会	卒園児保護者	つつじ学園	35	7	42
7月12日、10月14、19日、2月14、15日	心理お話し会	臨床心理士	つつじ学園	—	15	15
2月23日	講演 (保護者会)	茅ヶ崎市立図書館職員	つつじ学園	8	—	8

ケ 学園行事

事業計画に基づき学園行事を次のとおり実施した。

月日	行事内容	場所	出席人数		
			児童発達支援センター	児童発達支援事業	計
4月 4日	入園式、始業式	つつじ学園	32	2	34
5月24日	ひよこ組遠足	里山公園	—	2	2
5月11日	学童農園(芋の苗植え)	萩園農園	10	8	18
5月26日	あひる組遠足	アメージングワールドるらら港北	34	—	34
6月12～17日	家族参観	つつじ学園	—	8	8
6月 9日 7月13日	学童農園(草むしり)	萩園農園	18	13	31
7月22日	家族参観	つつじ学園	28	—	28
7月18～28日	家族参観	つつじ学園	—	11	11
8月1、4日	養護学校プール	茅ヶ崎養護学校	5	3	8
8月11日	ふれあい交流会	つつじ学園	32	22	54
8月24、25日、 9月21日	学童農園(草むしり)	萩園農園	7	15	22
9月27日	ひよこ組遠足	里山公園	—	3	3
10月29日	運動会	茅ヶ崎市総合体育館	35	3	38
11月18日	つつじ学園祭	つつじ学園	32	22	54
12月 9日	家族参観	つつじ学園	25	6	31
12月20、21、22日	クリスマス会	つつじ学園	35	18	53
1月13日	家族参観	つつじ学園	—	11	11
1月19日	交通安全教室	つつじ学園	34	2	36
3月 7日	音楽会	つつじ学園	34	16	50
3月23日	あひる組卒園式	つつじ学園	37	—	37

時刻	児童発達支援センター	時刻	児童発達支援事業
8:30	全職員打ち合わせ 日課打ち合わせ	8:30	全職員打ち合わせ 日課打ち合わせ
8:40	通園バス出発	8:50	活動準備・記録
9:00	活動準備・記録	9:15	個別指導
9:20	個別指導	10:00	登園 支度・自由遊び
10:00	通園バス到着、登園 支度・自由遊び・排泄	10:20	リズム
10:50	集まり・水分補給	10:30	集まり リラックス体操
11:00	部屋別活動、全体活動	11:10	機能回復訓練等
12:00	給食	11:20	課題遊び
12:30	歯みがき・着脱・自由遊び	12:00	給食
13:00	課題活動 リラックスタイム	12:30	排泄・自由遊び
14:00	集まり・降園準備	12:50	集まり・降園準備
14:30	通園バス出発、降園 清掃	13:00	降園(親子グループ) 個別指導
15:45	通園バス到着		面談
16:00	記録等 担当打ち合わせ		清掃 記録等
		15:00	担当打ち合わせ
16:40	全職員帰りの打ち合わせ	16:40	全職員帰りの打ち合わせ
17:15	職員退勤	17:15	職員退勤

コ 日
課表

3 平成
29年度
の重点
目標の
達成状
況と評価

	重点目標	達成状況と評価
(1)	児童やその保護者が安心して通えるよう、看護師、職員、医療機関との連携を強化する。	達成できた。 看護師を常時2名程度配備し、医療面の支援が必要な子ども（呼吸器使用等）に対する状況把握や随時の支援体制の強化と、発作、食物アレルギー、発達障害等を持つ子どもに対する主治医との連携（支援方針の共有等）を行った。 子どもの状態の把握、日ごろの様子を保護者と常に確認しながら個に合わせた療育を実施した。 身体状況（未歩行、姿勢保持等）や発達段階に応じ、個別対応職員を配置するなど、療育の充実を図った。 クラス担任の職員をはじめとして、多様な職種の職員がより一層効果的に連携して児童の療育に携わることができるよう、学園の運営組織体制の見直しを行い、30年度の学園運営の改善につなげた。
(2)	障害児に関わる関係機関等との連携会議に積極的に参加し、途切れのない支援のための情報の共有を行い、障害児支援への理解を深めるとともに、早期療育を実施する。	達成できた。 茅ヶ崎市自立支援協議会そだちの支援部会長の役割を担い、つつじ学園をはじめとする支援機関の療育の充実と、保護者、児童の円滑な相談、関係機関との連携に向けて共通の支援シートの作成を推進し、つつじ学園から試行した。療育連絡会に参加し、市内の児童発達支援の連携や茅ヶ崎市の療育の在り方について意見交換を行うことで、早期療育の必要性を訴えてきた。
(3)	広報、地域活動への参加、地域での社会体験を通し、地域におけるつつじ学園への理解と周知の機会をさらに増やす。	概ね達成できた。 中学の学習発表会の見学、近隣保育園の児童との交流、学童農園の利用、公共の交通機関や施設を利用した園外活動などの機会を通して、社会体験を積み重ねるとともに、地域社会の人々に障害児への理解やつつじ学園の活動に関する周知につなげることができた。 つつじ学園の療育目標や関係機関との連携等について記したグランドデザインを作成し、現在、ホームページ等への掲載について検討している。
(4)	旬の地元の食材を献立に取り入れる。また、前年度に引き続き、摂食状況に合った個別対応食への取り組みを強化する。	達成できた。 給食において地産地消の食材を生かした献立に努めたことで、職員全体に地域を大切にする意識が高まり、調理実習でも学童農園で児童が栽培した野菜を使用するなど、児童の体験を生かした食育につなげた。 年間を通して児童一人ひとりの状況に合わせた個別対応食を提供するとともに、必要に応じて管理栄養士や看護師と連携した摂食指導を実施し、対象の児童の食の嗜好や摂食量などに改善が見られた。

1 事業の概要

(1) 基本方針

障害者総合支援法及び茅ヶ崎市障害児通所施設条例の定めるところにより、障害児が学校下校後や学校休業期間中に活動する場を提供し、障害児を日常的に介護している家族の一時的な休息及び障害児を持つ保護者の就労支援を目的とする。

ア 学校や年齢が異なる仲間との交流を通して、子どもたちの社会性や協調性を養う。

イ 一人ひとりの子どもの特性やニーズに対応したきめ細かい支援を行う。

(2) 施設の概要

ア 定員 1日あたり 各10名

イ 位置と規模

	かめっこくらぶ（東海岸）	かめっこくらぶ（松が丘）
所在地	茅ヶ崎市東海岸北三丁目7番44号	茅ヶ崎市松が丘二丁目8番51号
敷地面積	114.84 m ²	1815 m ²
建物面積	66.10 m ²	1,024 m ² （1階指導室 17.8 m ² 使用）
建物構造	木造瓦葺平屋建	鉄筋コンクリート造り2階建

2 管理・運営

(1) 職員配置（平成30年3月31日現在）

ア 正規職員

区分	施設長	保育士
人数	(1)	1 (1)

() は兼務

イ 非常勤職員

職種	勤務日数	勤務時間	備考
保育士	週4日	5.5	
	週3日	5.5	
	週1日	5.5	
児童指導員	週3日	5.5	
	週3日	5.5	
	週3日	5.5	
	週2日	6.0	
指導員	週4日	5.75	
	週1日	5.5	
運転員	週3日	2.0	
	週2日	4.0	
	週1日	2.0	

*学校の長期休業時は、9:00～17:30（送迎車添乗時は8:30～17:00）実働7.5時間の勤務で対応した。

(2) 職員研修・会議

研修会では、発達障害児への関わり方や防災についての準備、心構えなどを学び、日ごろの支援、環境設定の仕方を考え直す機会となった。

研修の名称	主催	日数	延人数
茅ヶ崎市・寒川町障害児者通所事業所連絡会研修会	茅ヶ崎市・寒川町 障害児者通所事業所連絡会	2	14
平成 29 年度茅ヶ崎市施設連絡会研修会	茅ヶ崎市施設連絡会	1	3
	合計	3	17

会議の名称	主催	日数	延人数
茅ヶ崎市・寒川町障害児者通所事業所連絡会	茅ヶ崎市・寒川町 障害児者通所事業所連絡会	5	10
茅ヶ崎養護学校施設開放事業会議	茅ヶ崎養護学校	3	4
茅ヶ崎養護学校支援事業所等連絡会	茅ヶ崎養護学校	2	2
	合計	10	16

(3) 利用者の状況

特別支援級に通う児童は放課後等デイサービスへ移行するケースが多く、個別対応が必要な重度の障害児の利用が増加している。

不登校の児童 1 名に対し、家庭・学校以外で安心して過ごせる場所として、東海岸で午前の活動を重ね、年度末には集団で過ごせるようになった。また、放課後、家庭での過ごしが難しい児童が、定期的にかめっこくらぶを利用することで、生活リズムや対人面での安定が見られた。

高学年の利用が多く、性の問題など思春期への対応が課題となっている。

ア 登録・利用状況

<共通>	29年度利用状況	28年度利用状況	年度対比増減	年度対比率
実日数	239	238	1	100.4%
延登録数	84	93	-9	90.3%
登録解除数	24	21	3	114.3%

<東海岸>	29年度利用状況	28年度利用状況	年度対比増減	年度対比率
実日数	239	238	1	100.4%
延利用数	1,520	1,680	-160	90.5%
1日平均出席数	6.4	7.1	-0.7	

<松が丘>	29年度利用状況	28年度利用状況	年度対比増減	年度対比率
実日数	239	238	1	100.4%
延利用数	1161	994	167	116.8%
1日平均出席数	4.9	4.2	0.7	

イ 登録状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
初日登録数	70	72	74	77	78	79	79	80	80	82	82	82	935
登録（知的）	2	2	3	2	1	0	1	0	2	0	0	0	13
登録（肢体）	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
解除（知的）	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	20	22
解除（肢体）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2
合計	72	74	77	78	79	79	80	80	82	82	82	60	925

ウ 利用状況

東海岸	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	平均	前年度計	前年度平均
実日数	20	20	22	20	17	20	21	20	20	19	19	21	239	19.9	238	19.8
延利用数	144	137	148	128	123	121	125	121	127	87	125	134	1,520	126.6	1,680	140.0
1日平均出席数	7.2	6.9	6.7	6.4	7.2	6.1	6.0	6.1	6.4	4.6	6.6	6.4		6.4		7.1

松が丘	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	平均	前年度計	前年度平均
実日数	20	20	22	20	17	20	21	20	20	19	19	21	239	19.9	238	19.8
延利用数	77	104	134	112	109	95	89	92	79	78	92	100	1,161	96.8	994	82.8
1日平均出席数	3.9	5.2	6.1	5.6	6.4	4.8	4.2	4.6	4.0	4.1	4.8	4.8		4.9		4.2

エ 障害別利用実人数

東海岸	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
知的(人)	37	34	35	35	36	33	37	35	35	30	34	33	414
肢体(人)	3	4	4	3	3	3	4	3	3	3	3	3	39
合計(人)	40	38	39	38	39	36	41	38	38	33	37	36	453
松が丘	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
知的(人)	24	25	26	27	27	25	26	26	26	28	27	28	315
肢体(人)	2	2	3	3	3	2	2	2	2	1	1	2	25
合計(人)	26	27	29	30	30	27	28	28	28	29	28	30	340

才 年齢構成（利用月別）

月別	4月		5月		6月		7月		8月		9月	
性別	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
年少	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
年中	1	0	1	0	3	0	2	0	3	0	3	0
年長	5	2	5	2	5	2	6	2	4	2	4	2
小学1	11	0	10	1	11	1	11	1	11	1	10	1
小学2	8	2	8	2	7	2	8	2	10	2	8	1
小学3	6	1	5	1	6	1	7	1	8	1	7	1
小学4	8	5	7	6	8	6	7	5	8	5	6	5
小学5	5	2	5	2	5	1	4	2	4	1	3	2
小学6	4	6	4	6	3	6	4	6	4	5	4	6
合 計	49	18	45	20	48	19	49	19	52	17	45	18

月別	10月		11月		12月		1月		2月		3月		合 計	
性別	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
年少	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0
年中	4	0	5	0	3	0	4	0	4	0	4	0	37	0
年長	4	2	5	2	4	4	4	4	4	4	4	4	54	32
小学1	9	1	8	1	8	1	8	1	8	1	9	1	114	11
小学2	9	2	8	2	8	2	7	2	7	2	8	2	96	23
小学3	8	1	7	1	8	1	5	1	6	1	7	1	80	12
小学4	7	6	7	4	7	4	6	5	7	5	6	5	84	61
小学5	4	2	4	2	4	2	3	1	4	2	4	2	49	21
小学6	4	6	4	6	4	6	4	6	4	6	3	6	46	71
合 計	49	20	48	18	46	20	41	20	44	21	45	21	561	231

カ 障害の種別（重複あり9名）（平成30年3月1日登録時）

	身障手帳				療育手帳					未交付	計
	1級	2級	3級	小計	A1	A2	B1	B2	小計		
人数	3	6	1	10	11	18	23	13	65	16	82

（4）支援・指導方法

ア 職員による支援

（ア） 毎週月曜日から金曜日までとし、予定表に基づいて支援した。

（イ） 休所日は、市の条例に基づき、日・土曜日、国民の祝日に関する法律に規定する休日、1月1日から3日、12月29日から31日までを休所日とした。また、8月14日から18日を夏季休所日とした。

（ウ） 開所時間

通 常 期 学校終了時から午後6時30分まで

長期休暇期 午前9時30分から午後5時30分まで

(エ) 送迎

学校から事業所までの迎え、自宅までの送りを行った。

イ 指導方法

(ア) 連絡帳を通じて、体温、排泄、食事の記録や、園や家庭での子どもの様子をやりとりし、家庭との連携を深めた。

(イ) 長期休暇時には公園遊びや散歩などを積極的に取り入れ、体力作りを実施した。また買い物体験や公共施設の利用を通し、公共の場でのルールを学ぶことができた。

移動手段	行き先
自動車	茅ヶ崎養護学校夏祭り
自動車	寒川水道記念館、柳島わくわく公園、茅ヶ崎市市民の森、辻堂海浜公園、厚木防災センター いすゞプラザ、柳島スポーツ公園、新江の島水族館、藤沢少年の森、平塚総合公園、 藤沢市児童館（中里こどもの家）、大庭城址公園、エイビイ、ニトリ、島忠
徒歩	茅ヶ崎小学校、茅ヶ崎図書館、クリエイト、たまや

(ウ) 季節の行事に合わせて、描画や製作を行い、自分たちで作る達成感を味わった。

(エ) 1日の活動の見通しが立てられるように、写真カードを使用した個別スケジュールを用いた。

(オ) 県立茅ヶ崎養護学校施設開放事業

県立茅ヶ崎養護学校の自立活動室を使用し、年に延べ18日、午後2時15分から午後5時まで、エアトランポリンやタイヤブランコなど大きな遊具を使い、体を使った活動を行った。インフルエンザの影響や、2月より養護学校のトイレ工事に伴い利用ができなかったため、昨年度に比べ85名利用人数が減少した。

対象日	利用人数	対象日	利用人数	対象日	利用人数
4月20日	8	6月29日	5	11月16日	5
4月24日	6	7月6日	5	11月30日	9
5月8日	4	9月7日	7	12月11日	4
5月18日	9	9月21日	4	12月18日	5
6月15日	9	10月19日	5	1月18日	3
6月19日	8	11月6日	5	2月1日	3
合計					104

(カ) 避難訓練

大地震による津波警報発令を想定し、利用児、職員とともに、近隣小学校へ避難訓練を実施した。また、長期休暇時には、厚木市防災センターへ行き、地震、強風、火災、消火体験を行った。

対象日	児童数	避難場所
8月9日	7	茅ヶ崎小学校
3月30日	5	茅ヶ崎小学校

(キ) 車両の運行状況

ハイエース	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	平均
走行距離(km)	442	500	528	723	686	509	469	389	564	336	444	622	6,212	517.7
運行日数	15	18	18	19	17	17	16	16	17	14	14	18	199	16.6
1日平均走行距離(km)	29.5	27.8	29.3	38.1	40.4	29.9	29.3	24.3	33.2	24.0	31.7	34.6		31.2

ターセル	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	平均
走行距離(km)	359	415	515	392	415	384	318	330	339	329	340	339	4,475	372.9
運行日数	19	18	21	18	15	20	18	20	19	19	16	19	222	18.5
1日平均走行距離(km)	18.9	23.1	24.5	21.8	27.7	19.2	17.7	16.5	17.8	17.3	21.3	17.8		20.2

アルト	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	平均
走行距離(km)	176	152	151	195	136	265	221	157	163	135	165	128	2,044	170.3
運行日数	18	16	16	16	11	17	16	14	15	13	15	13	180	15.0
1日平均走行距離(km)	9.8	9.5	9.4	12.2	12.4	15.6	13.8	11.2	10.9	10.4	11.0	9.8		11.4

ステップワゴン	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	平均
走行距離(km)	600	747	570	574	634	358	468	505	591	406	420	690	5,850	487.5
運行日数	20	20	21	19	16	18	19	19	21	18	18	21	230	19.2
1日平均走行距離(km)	30.0	37.4	27.1	30.2	39.6	19.9	24.6	26.6	28.1	22.6	23.3	32.9		25.4

N-BOX	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	平均
走行距離(km)	237	317	385	252	190	354	297	270	280	296	259	355	3,492	52
運行日数	20	19	20	16	15	19	18	20	18	18	18	19	220	2
1日平均走行距離(km)	11.9	16.7	19.3	15.8	12.7	18.6	16.5	13.5	15.6	16.4	14.4	18.7		15.9

3 平成29年度の重点目標の達成状況と評価

	重点目標	達成状況と評価
(1)	特性の理解や支援スキルの向上のため、職場内研修を年3回行う。	定例会議の中で、「虐待」「パワーハラスメント、モラルハラスメント」「送迎車内での緊急時対応」について年3回研修を行った。自己点検シートの結果を職員全員で振り返り、日頃疑問に感じていることを確認し、支援方法について共通理解を持つことができた。
(2)	ケース検討を行い、障害特性に配慮した環境整備を行う。	視覚刺激に弱い児童のために、パーテーションを用い、視界を遮ることで、食事や遊びに集中して参加できるようになり、職員の介助なく自分で行動する姿勢が多く見られた。また、見通しがわかりにくい児童が、写真を使用した個別スケジュールやタイムタイマーを用い、次の活動や残り時間が目で見て理解できるようになったため、活動中に混乱することが減った。 集団が苦手な児童に対し、外からの刺激を少なくするために、職員や過ごす場所を固定し、1対1で安心して過ごす時間を積み重ねることができた。

ふれあい活動ホーム赤羽根事業報告

1 事業の概要

(1) 基本方針

障害をもつ人が働きながら、住み慣れた地域で自立した生活ができるよう、それぞれの能力に応じた支援計画を作成し支援するとともに、一人ひとりの人権を尊重し、個々の特性とニーズに即したサービスを提供する。

ア 働ける人材を育成する

利用者一人ひとりの希望や実態に則した目標を設定し、施設内・外での作業を通じて自立した社会生活へ向けての支援を行う。

イ 工賃アップを目指す

利用者が地域で経済的にも自立して生活するために、工賃水準を引き上げる。

(2) 施設の概要

ア 定員 就労移行支援 6名 就労継続支援B型 23名

イ 位置と規模

- (ア) 所在地 茅ヶ崎市赤羽根338番1
- (イ) 敷地面積 1,229.54 m²
- (ウ) 建物構造 鉄筋コンクリート造り2階建て
- (エ) 建物面積 540.72 m²
- (オ) 作業室面積 122.70 m²

ウ 事業所指定

- (ア) 法的根拠 障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律
- (イ) 事業指定者 神奈川県知事
- (ウ) 事業所番号 1412400010
- (エ) 指定日 平成21年4月1日

2 管理・運営

(1) 職員配置 (平成30年3月31日現在)

職名	人員	常勤換算	備考
管理者	1	0.5	就労移行・就労継続B 就労支援員兼務 あっとほ一む小和田管理者兼務
就労支援員		0.4	就労移行
サービス管理責任者	1	1	就労移行・就労継続B
生活支援員	1(1)	0.5	就労移行・就労継続B あっとほ一む小和田生活支援員兼務
職業指導員	8(6)	5.9	就労移行1名・就労継続B7名
栄養士	1	0.2	就労移行・就労継続B つつじ学園兼務

調理員	4(4)	2.1	就労移行・就労継続 B
計	16(11)	10.6	

※ () は非正規職員の内数

(2) 職員研修

情報収集、職員のスキルアップを目的として次の研修会等に参加した。

研修会などの名称	主催	日数	延人数
施設運営管理研修	神奈川県社会福祉協議会	1	1
茅ヶ崎市障害者施設連絡会研修会	茅ヶ崎市障害者施設連絡会	1	6
就業支援基礎研修	神奈川障害者職業センター	3	3
神奈川県強度行動障害対策研修	神奈川県	1	1
新泉こころのクリニック Dr. による研修会	つつじ学園	2	4

(3) 会議

関係機関や地域との連携、情報共有を目的として次の会議に出席した。

会議の名称	回数
藤沢公共職業安定所障害者チーム支援連絡協議会	9
茅ヶ崎市障害者施設連絡会	4
新規利用者ケース会議	3
余暇支援 NW 会議	4

(4) 保護者懇談会

保護者との連絡調整や意見交換などを目的として年 2 回実施した。

日時	利用者(人)	保護者(人)	職員(人)
6 月 30 日	1	11	3
11 月 9 日	2	11	3

(5) 利用者の状況

ア 月別入退所者数（ダイレクト B に関する就労アセスメントを含む。）

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
入													
所													
退													
所													
月末在籍者数	33	33	32	33	33	34	35	35	35	33	34	31	

イ 年齢別・性別分類（平成 30 年 3 月 1 日現在）

年齢 性別	18～29	30～39	40～49	50～59	60～69	70～79	計
男	6	8	6	1	2	2	25
女	2	1	4	0	1	0	8
計	8	9	10	1	3	2	33

ウ 出席状況（土日祝日の臨時営業日を除く）

（ア）就労移行（ダイレクトBに関する就労アセスメントを含む。）

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
要通所日数	20	20	22	20	19	20	21	20	20	19	19	21	241
延在籍数	120	120	132	120	114	120	126	120	120	101	76	81	1,350
延出席者数	119	119	131	120	114	117	126	120	120	101	75	78	1,340
分析	一日平均出席者数	5.6	5.6	5.9	6.0	6.0	5.9	6.0	6.0	6.0	3.9	3.7	5.6
	出席率（％）	99.1	99.1	99.2	100	100	97.5	100	100	100	98.7	96.3	99.3

（イ）就労継続B型

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
要通所日数	20	20	22	20	19	20	21	20	20	19	19	21	241
延在籍数	545	540	578	530	513	560	609	580	580	551	551	602	6,739
延出席者数	510	497	552	506	482	522	565	541	525	478	504	565	6,247
分析	一日平均出席者数	25.5	24.9	25.1	25.3	25.4	26.1	26.9	27.1	26.3	25.2	26.5	25.9
	出席率（％）	93.6	95.5	92.9	95.4	94.0	93.2	92.8	93.3	90.5	86.8	91.5	92.7

エ 身体障害の内訳（平成30年3月1日現在）

（ア）就労移行

級		1	2	3	4	5	6	計
区分	人数	—	—	—	—	—	—	—
	肢体不自由	—	—	—	—	—	—	—
	腎臓機能障害	—	—	—	—	—	—	—
	聴覚障害	—	—	—	—	—	—	—
合計								0

（イ）就労継続B型

級		1	2	3	4	5	6	計
区分	人数	3	3	1	—	1	1	9
	肢体不自由	3	3	1	—	1	1	9
	聴覚障害	1	1	—	—	—	—	2
	高次脳機能障害	—	—	—	—	1	—	1
合計								12

※知的障害・精神障害との重複1名、知的障害との重複1名、精神障害との重複1名を含む。

オ 知的障害の内訳（平成 30 年 3 月 1 日現在）

（ア） 就労移行

A 1（最重度）	A 2（重度）	B 1（中度）	B 2（軽度）	計
—	—	1	2	3

（イ） 就労継続 B

A 1（最重度）	A 2（重度）	B 1（中度）	B 2（軽度）	計
1	2	11	3	17

カ 精神障害の内訳（平成 30 年 3 月 1 日現在）

（ア） 就労移行

1 級	2 級	3 級	計
—	1	—	1

（イ） 就労継続 B

1 級	2 級	3 級	計
—	3	1	4

キ 居住地域別分類（平成 30 年 3 月 1 日現在）

区分	就労移行	就労継続 B	計
南湖	—	1	1
松風台	—	1	1
赤羽根	2	2	4
鶴が台	—	2	2
萩園	—	1	1
浜之郷	—	1	1
十間坂	—	1	1
室田	—	2	2
小和田	—	3	3
松林	—	1	1
西久保	—	1	1
高田	—	1	1
矢畑	—	1	1
ひばりが丘	—	1	1
円蔵	1	—	1
松が丘	—	1	1
浜見平	—	1	1
本村	—	1	1
茅ヶ崎	1	—	1
香川	—	1	1

東海岸北	—	2	2
甘沼	—	1	1
寒川町	—	2	2
藤沢市	—	1	1
計	4	29	33

ク 居住形態分類（平成 30 年 3 月 1 日現在）

	家族と同居	グループホーム	一人暮らし	計
就労移行	4	—	—	4
就労継続 B	24	4	1	29

ケ 利用者の概要

平成 29 年度は、相談支援事業所や就労支援機関等からの紹介で、10 名が見学、7 名が実習を行い、3 名が利用に結びついた。

一日の平均利用者数は、就労移行が 5.6 人で昨年度（4.3 人）と比較し 1.3 人の増、就労継続 B 型が 25.9 人で昨年度（27.9 人）と比較し 2.0 人の減となった。

コ ダイレクト B に関する就労アセスメントの受け入れ状況

平成 29 年度は、2 名の就労アセスメントを受け入れた。

(6) 授産活動と工賃

ア 経年の収入状況（平成 19 年度～平成 29 年度）

単位：円

	印刷	軽作業	清掃	弁当販売	計
平成 19 年度	4,886,585	2,779,198			7,665,783
平成 20 年度	6,635,109	2,883,535	295,416		9,814,060
平成 21 年度	7,182,213	3,068,467	574,481	1,512,100	12,337,261
平成 22 年度	9,017,186	3,155,863	1,285,731	2,414,800	15,873,580
平成 23 年度	9,033,391	4,341,297	1,701,907	2,590,600	17,667,195
平成 24 年度	9,057,571	7,466,067	2,005,761	3,301,140	21,830,539
平成 25 年度	8,999,852	6,525,111	2,037,916	3,341,590	20,904,469
平成 26 年度	8,042,750	6,300,162	3,537,901	3,437,200	21,318,013
平成 27 年度	8,156,431	6,412,995	3,511,566	3,409,107	21,490,099
平成 28 年度	8,543,935	7,128,523	3,572,636	3,723,242	22,968,336
平成 29 年度	7,182,602	7,950,967	3,492,583	2,915,250	21,541,402

イ 平成 29 年度月別収入状況

単位：円

月	印刷	軽作業	清掃	弁当販売	計
4	1,232,136	542,366	87,935	285,800	2,148,237
5	745,756	559,488	140,105	225,200	1,670,549
6	500,592	867,637	219,496	237,250	1,824,975
7	245,394	635,519	100,190	234,100	1,215,203

8	347,450	593,763	163,990	209,100	1,314,303
9	267,394	463,476	404,108	215,000	1,349,978
10	535,855	755,138	129,160	237,200	1,657,353
11	874,030	749,968	272,571	317,400	2,213,969
12	552,938	710,779	595,644	231,600	2,090,961
1	363,324	544,947	179,930	218,300	1,306,501
2	546,557	389,623	577,094	255,300	1,768,574
3	971,176	1,138,263	622,360	249,000	2,980,799
計	7,182,602	7,950,967	3,492,583	2,915,250	21,541,402
目標	8,800,000	7,800,000	3,600,000	3,500,000	23,700,000

ウ 主な取引先

作業種目	取引先
印刷	(社福)麗寿会、(社福)翔の会、(株)松村商会、(株)湘南污水研究所、神奈川県貯水槽協会、(株)三幸運送、(株)コバシ、茅ヶ崎遊技場組合、茅ヶ崎市社会福祉協議会、地区社会福祉協議会、茅ヶ崎市職員労働組合、茅ヶ崎養護学校 PTA、ろう教育を考える協議会、茅ヶ崎市など
軽作業	(株)大村紙業、熊澤酒造(株)、コバシ(株)、フジケース(株)、(株)三幸運送、温故知新開工房、高田商店会、ユナイトパック(株)、(株)アイールコーポレーション、茅ヶ崎市など
清掃	(有)モザミトータルビューティー、湘南地域就労援助センター、茅ヶ崎市青少年会館、茅ヶ崎市文化資料館、茅ヶ崎市福祉会館、つつじ学園、茅ヶ崎市生きがい会館、茅ヶ崎市、神奈川セルブセンターなど
弁当販売	茅ヶ崎保健所職員、茅ヶ崎市職員、地区社会福祉協議会、茅ヶ崎市社会福祉協議会、茅ヶ崎市施設連絡会、茅ヶ崎市農業まつり委員会など 年間販売食数 5,591 食

エ 利用者への工賃配分

利用者の工賃は、各作業種目の工賃収入を合算した金額を各人の評価ポイントと出席率に応じて配分している。工賃の計算方法は次のとおり。

(印刷) ①売上げ－消費税－原材料費－業務委託費－非常勤職員給与＝実収入

②実収入－必要経費（実収入の 20％）－授産活動費（かかった経費）＝工賃収入

(軽作業) ①売上げ－消費税＝実収入

②実収入－必要経費（実収入の 5％）＝工賃収入

(清掃) ①売上げ－消費税＝実収入

②実収入－必要経費（実収入の 12％）＝工賃収入

(弁当販売) ①売上げ－消費税－原材料費＝実収入

②実収入－必要経費（実収入の5％）＝工賃収入

(共通) ①勤務態度、作業能力等に応じた各人の評価ポイントを作成する。（半期に1度）

②毎月の工賃収入合計÷上記ポイントの全作業員合計＝1ポイント当たりの工賃
（小数点以下第2位）

③1ポイント当たりの工賃×各人の評価ポイント×各人の出席率＝工賃配分金

(手当) ①リーダー手当 月額5,000円 1名

②勤勉手当 月額4,000円 1名

③班長手当 月額2,000円 3名

オ 平均工賃

	年間配分金	月額平均
就労移行	2,492,606円	35,107円
就労継続B	8,724,814円	25,967円

カ 売上げの概要

平成29年度の売上げは、約2,154万円となり、目標である2,370万円を下回る結果となった。軽作業に関しては目標額を上回ることができたが、清掃、印刷、弁当調理に関しては、取引先の減少等が影響し、売り上げが落ち込んだ。

(7) 就労支援

ア 企業就労

平成29年度の就労状況は次のとおり。

区分	性別	年齢	入社日	社名	業務内容
就労継続B	男	35	平成29年4月10日	茅ヶ崎市役所	事務補助
就労移行	男	37	平成30年1月22日	(社福)光友会	日常清掃
就労移行	男	32	平成30年1月25日	パートナーエージェント	水耕栽培
就労移行	男	26	平成30年3月16日	(株)ミヤザワ	軽作業

イ 職場実習

企業名	業務内容	実習者数	就労者
(株)ファンケルスマイル	軽作業等	1	0
茅ヶ崎商工会議所	封入・封緘	8	0
(株)ミヤザワ	軽作業	2	2
合計（延べ人数）		11	0
内訳	就労移行	4	2
	就労継続B型	1	0

ウ 施設外作業

企業名	業務内容	回数	参加延べ人数
温故知新開工房	ブルーベリー農園除草作業	38	172
茅ヶ崎市	弁当販売	101	301

茅ヶ崎市下水道河川管理課	除草作業、河川清掃	62	317
(南)モザミトータルビューティー	美容室定期清掃	20	66
高田商店会	ボトルキャップ回収・清掃	18	71
生きがい会館	定期清掃	6	24
熊澤酒造	軽作業	6	11
カフェ・サザンボ	喫茶業務	97	97
茅ヶ崎養護学校	定期清掃	2	9
茅ヶ崎市青少年会館	定期清掃、除草剪定作業	8	47
茅ヶ崎市文化資料館	日常清掃、定期清掃	52	160
フジケース㈱	軽作業	16	79
湘南地域就労援助センター	日常清掃	50	50
防災対策課	水処分	4	13
つつじ学園	日常清掃、定期清掃	187	561
福祉会館	定期清掃	2	12
福祉・介護農園普及推進会	菜の花収穫作業	2	7
その他	焼きそば販売	1	9
合計		672	2006

エ グループワーク

就労移行支援と就労継続支援B型の利用者に対し、就労に向けた意識付けを目的として月2回のグループワークを行った。

内容は、求人情報の提供、社会人として必要なマナーの学習、働く動機、履歴書の書き方、企業実習の報告等を行った。

オ 就労支援の概要

ハローワークでの求人票収集や、地域の就労支援機関との連携、藤沢公共職業安定所障害者チーム支援連絡協議会での情報共有により就労希望者に適した求人情報を提供した結果、平成29年度は、就労移行から3名、就労継続B型から1名が一般就労した。

就労後の定着支援では、状況に応じた頻度で巡回を行い、当事者と企業の双方に対して課題の解決に向けた支援を行った。

(8) その他

ア 食事提供

食事については、栄養士が献立を作成し、赤羽根の厨房で調理員と利用者が調理を行い、赤羽根・あかしあ・第2あかしあに提供している。

食数、単価及び栄養量は次のとおり。

(ア) ふれあい活動ホーム赤羽根

年間 食数	単価 (年平均)	エネルギー (年平均)	たんぱく質 (年平均)	脂質 (年平均)
8,218食	310.6円	694kcal	28.2g	21.3g

(イ) ふれあい活動ホームあかしあ・第2あかしあ

年間 食数	単価 (年平均)	エネルギー (年平均)	たんぱく質 (年平均)	脂質 (年平均)
9,393 食	310.6 円	688kcal	27.0g	20.9g

イ 健康及び衛生管理

体重測定を月1回実施した。

健康診断を実施した。(他機関で健康診断を受診していない利用者を対象)

健康診断の検査項目は次のとおり。

検査項目：血圧測定、尿検査、血液化学検査、貧血検査、診察所見、心電図、
胸部レントゲン検査

ウ 防災

施設の消防計画及び地震防災応急計画に基づき、次のとおり避難訓練を実施した。

実施月日	出火想定 場所	参加人員			計	内 容
		利用者	職員	その他		
10月6日	厨房	33	11	—	44	地震発生を前提とした第二次災害「火災」を想定
3月30日	厨房	28	10	—	38	地震発生を前提とした第二次災害「火災」を想定

エ 年間行事

事業計画に基づき次のとおり実施した。

実施日	行事内容
7月15日(土)	利用者レクリエーション
8月11日(金)	事業団ふれあい交流会
10月4日(水)	事業団合同スポーツ大会
11月11日(土)	松林公民館まつり

※香川公民館まつりへの参加を予定していたが、荒天のため中止となった。

オ 車両の運行状況

(ア) キャラバン

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計	平均
走行距離 (km)	325	405	344	351	353	426	430	308	214	168	300	477	4,101	341.8
運行日数 (日)	16	15	11	20	19	19	16	15	15	16	14	21	197	16.4

1日平均 走行距離 (km)	20.3	27.0	31.3	17.6	18.6	22.4	26.9	20.5	14.3	10.5	21.4	22.7		20.8
----------------------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	--	------

(イ) アトラストラック

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計	平均
走行距離 (km)	1,030	757	1,074	838	696	767	680	894	598	694	603	670	9,301	775.1
運行日数 (日)	19	16	18	17	16	18	17	21	20	17	18	20	217	18.1
1日平均 走行距離 (km)	54.2	47.3	59.7	49.3	43.5	42.6	40.0	42.6	29.9	40.8	33.5	33.5		42.9

(ウ) セレナワゴン

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計	平均
走行距離 (km)	158	328	144	261	233	319	225	216	109	70	207	172	2,442	203.5
運行日数 (日)	8	14	12	18	14	15	14	11	10	7	12	15	150	12.5
1日平均 走行距離 (km)	19.8	23.4	12.0	14.5	16.6	21.3	16.1	19.6	10.9	10.0	17.3	11.5		16.3

(エ) サンバーバン

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計	平均
走行距離 (km)	327	414	388	281	483	397	422	398	425	326	378	402	4,641	386.8
運行日数 (日)	23	19	24	19	20	20	22	22	20	19	20	22	250	20.8
1日平均 走行距離 (km)	14.2	21.8	16.2	14.8	24.2	19.9	19.2	18.1	21.3	17.2	18.9	18.3		18.6

(オ) エブリー

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計	平均
走行距離 (km)	215	183	208	218	246	241	226	337	261	241	418	329	3,123	260.3

運行日数 (日)	21	18	19	17	19	18	20	19	20	17	19	20	227	18.9
1日平均 走行距離 (km)	10.2	10.2	10.9	12.8	12.9	13.4	11.3	17.7	13.1	14.2	22.0	16.5		13.8

3 平成29年度重点目標の達成状況と評価

(1) 共通

	重点目標	達成状況と評価
ア	あっとほーむ小和田、ぐっじょぶ矢畑のバックアップ	あっとほーむに対しては世話人会議への出席、居室清掃、ぐっじょぶに対しては作業提供など、円滑な事業運営のための支援を行った。
イ	課題の抽出と改善	担当省会議と正規職員の会議を月1回実施し、大小さまざまな課題を拾い上げ、改善することができた。具体的には、会議の効率化のため次年度に向けて会議の見直しを行うこととした。利用者の状況を共有するなかで作業配置の見直しなどを随時行った。
ウ	地域貢献と地域活動の強化	主に小出県道の清掃活動や公民館まつりへの出店により、地域住民と利用者との交流や、赤羽根の事業内容を地域に知ってもらう機会とすることができた。

(2) 就労移行（定員6名）

	重点目標	達成状況と評価
ア	4名の新規就労者	就労移行から3名、就労継続B型から1名が一般就労した。就労を希望している職種に対して作業を通じて支援を行うことにより、目標を達成することができた。
イ	就労者のフォロー	就労者の状況に応じた、電話相談や面談を行った。また、新規就労者にはこまめに企業訪問や本人を含め保護者にも連絡を取り安定して就労できるよう支援を実施した。
ウ	関係機関との連携	就労支援に関わる情報を共有するため、藤沢公共職業安定所障害者チーム支援連絡協議会への出席等を通し、関係機関との連携に努めた。連携の結果、求職者に適した求人情報の提供を受け、雇用に繋げることができた。

(3) 就労継続B型（定員23名）

	重点目標	達成状況と評価
--	------	---------

ア	作業の確保・開拓	納期や品質管理の徹底により、安定的に作業を確保することができた。既存の取引先に営業し、新規作業を獲得することができた。また、地域の作業所と連携していくことにより、単発の作業を受け入れることができ、軽作業に関しては、前年比約 40 万円増する月もあり利用者工賃に還元することができた。
イ	地域の福祉事業所への作業提供	軽作業で市内外の福祉事業所に積極的に作業を提供した。 提供した作業の売上げは約 160 万円（前年度約 90 万円）となっている。
ウ	一人月額平均 27,900 円以上	一人月額平均工賃は 25,967 円。就労移行支援利用者の作業評価が高かったため、就労移行支援利用者へ配分される工賃が多くなり、B 型の工賃額が少ない結果となった。

ふれあい活動ホームあかしあ事業報告

1 事業の概要

(1) 基本方針

利用者一人ひとりの人権を尊重し、個々の特性に応じた支援計画を作成し、利用者が「昨日は楽しかった。今日も楽しい。明日も楽しい一日でありたい」と思えるような支援を行う。

ア 利用者はかけがえのない人であるという認識のもと、利用者の自己実現のために、利用者の思いや希望を丁寧に読み取り、笑顔で優しく支援を行う。

イ 利用者は社会の対等の構成者であるという認識のもと、利用者の地域とのつながりを深め、地域でも自分らしい生活を送れるように、利用者の地域行事への積極的参加の支援を行う。

(2) 施設の概要

ア 定 員 生活介護事業 20名

イ 位置と規模

(ア) 所在地 茅ヶ崎市松浪一丁目10番4号

(イ) 敷地面積 653.75 m²

(ウ) 建物構造 鉄筋コンクリート造り1階建

(エ) 建築面積 278.3 m²

(オ) 作業室 作業室（機織り） 72.6 m² 作業室（木工） 32.4 m²

ウ 事業所指定

(ア) 法的根拠 障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律

(イ) 事業指定者 神奈川県知事

(ウ) 事業所番号 1412400671

(エ) 指定日 平成24年4月1日

2 管理・運営

(1) 職員配置（平成30年3月31日現在）

職 名	人 員	常勤換算	備 考
管理者	1	—	他施設との兼務
施設長	1	0.8	
サービス管理責任者	1	1	
生活支援員	12（12）	5.7	1日7名の勤務
医師	1（1）	—	嘱託
看護師	1（1）	—	他施設との兼務 月2回の訪問
計	17（14）	7.5	

※（ ）内は非常勤職員

(2) 一日のスケジュール

時 刻	内 容
8:30	職員出勤・活動準備
9:30	職員打合せ 利用者登所
10:00	朝の会・体操
10:15	活動開始
12:00	昼食・休憩

時 刻	内 容
13:00	ストレッチ体操・発声練習
13:10	活動開始
15:00	活動終了・清掃
15:30	帰りの会・利用者帰宅
16:00	活動準備・引継ぎ・打合せ
17:15	職員退勤

(3) 職員研修

研修会などの名称	主 催	場 所	日数	延人数
余暇支援ネット会議	茅ヶ崎市社会福祉協議会	茅ヶ崎市	2	2
意思決定支援研修	神奈川県社会福祉協議会	横浜市	1	1
茅ヶ崎市地域作業所連絡会 研修会（県立子ども自立生活 支援センター）	茅ヶ崎市地域作業所連絡会	平塚市	1	1
救命救急講習会	茅ヶ崎市地域作業所連絡会	茅ヶ崎市	2	2
新泉こころのクリニックDr による研修会	つつじ学園	茅ヶ崎市	1	7
		合計	7	13

(4) 会議等

会議等の名称	場 所	日数	延人数
茅ヶ崎市地域作業所連絡会	茅ヶ崎市	10	10
茅ヶ崎市自立支援協議会	茅ヶ崎市	20	20
		合計	30

(5) 利用者個別面談

個別支援計画作成と状況把握のため個別面談を行った。また、必要に応じて個別に面談を行い、利用者が楽しい日常を送れるように努めた。

実施時期	実施人数
平成 29 年 4 月～5 月	20
平成 29 年 10 月	20

平成 30 年 3 月	20
-------------	----

(6) 保護者懇談会及び保護者面談

施設の状況、利用者の様子等を保護者と共有し、利用者がより楽しい日常を送れるように、連絡調整・意見交換を行った。

ア 保護者懇談会

実施年月日	参加保護者人数
平成 29 年 4 月 19 日	14
平成 29 年 8 月 23 日	10
平成 30 年 2 月 22 日	11

イ 保護者面談

実施時期	実施保護者人数
平成 29 年 5 月	15
平成 29 年 10 月	15
平成 30 年 3 月	15

(7) あかしあネットワーク会議

地域の方、市内の福祉事業関係団体の方々から、あかしあ運営上の課題等について協議や支援をいただいた。

実施年月日	地域	福祉関係団体	市	事業団	計
平成 29 年 7 月 5 日	5	4	1	4	14
平成 30 年 2 月 6 日	4	2	1	3	10

なお、主な参加メンバーは茅ヶ崎市役所障害福祉課長、松浪地区社協会長、松浪地区自治会長、松浪地区民生委員、松浪小学校長、茅ヶ崎市身体障害者福祉協会会長、茅ヶ崎手をつなぐ育成会会長、茅ヶ崎市肢体不自由児者父母の会会長ほか。

(8) 利用者の状況

ア 月別入退所者数・在籍者数

区分 \ 月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
入 所	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
退 所	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
月末在籍者数	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	

イ 出席状況

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
要通所日数	21	20	26	20	23	20	21	21	20	19	19	22	252
延在籍数	420	400	520	400	460	400	420	420	400	380	380	440	5,040
延出席者数	372	368	426	367	399	328	366	371	362	335	338	380	4,412
分 析													
一日当たりの出席者数	17.7	18.4	16.4	18.4	17.3	16.4	17.4	17.7	18.1	17.6	17.8	17.3	17.5
出席率	88.5	92.0	82.0	92.0	87.0	82.0	87.0	88.5	90.5	88.0	89.0	86.5	87.5

ウ 年齢別・性別分類（平成 30 年 3 月 1 日現在）

年齢 性別	～19	20～29	30～39	40～49	50～59	60～69	70～	計
男	0	4	2	1	2	0	1	10
女	0	4	0	5	0	1	0	10
計	0	8	2	6	2	1	1	20

エ 障害の内訳（平成 30 年 3 月 1 日現在）

身体障害者			知的障害者				重複			計
2 級	3 級	(小計)	A1	A2	B1	(小計)	1 級 A1	2 級 A2	(小計)	
1	0	1	5	9	3	17	1	1	2	20

オ 居住地域別分類（平成 30 年 3 月 1 日現在）

区分	計	区分	計	区分	計	区分	計
松浪一	1	小桜町	1	本村二	1	小和田三	1
松浪二	2	緑が浜	1	鶴が台	1	旭が丘	3
浜之郷	1	東海岸南	1	浜竹一	1	円蔵	1
赤松町	1	萩園	1	美住町	1	出口町	1
共恵	1					合計	20

カ 利用者の概要

平成 29 年度 4 月、定員 20 名の在籍数でスタートする。利用者が安全で安心して生活できる環境を整えることに重点をおいて運営を行った。作業や昼食時の空間的な余裕の工夫と利用者同士の関係性にも配慮して個々の対応を丁寧に行った。利用者が落ち着いて生活できる環境を保つことで、保護者から信頼される施設運営ができた。養護学校を卒業して入所後 2 年、3 年、4 年目の利用者も日々の生活の積み重ねや様々な所内、所外の行事を経験して確実に成長している様子が見られた。通所方法としては、6 名が送迎サービスを利用、徒歩が 8 名、自転車 1 名、保護者の車による送迎が 4 名、バスが 1 名である。今年度も出席率が 87% を超えたことは喜ばしい状況である。

(9) 支援及び生産活動内容

ア 生活指導

個別支援計画に則って、利用者一人ひとりのニーズに応えられるように努力をした。生活支援では、日々の昼食の準備・片付けや施設の清掃、遠足やレクレーションの実施、地域交流事業への参加を通し、日常生活や社会生活の基本的な生活能力を高め、地域社会の一員としての自覚

を深めることに努めた。また、朝の体操、午後のストレッチ体操と発声練習も定着しており健康管理への意識向上に努めた。各自の健康管理に加えて、月に2回看護師に訪問してもらい健康チェックするとともに、嘱託医に相談できる環境も整えている。また、毎月1回調理の日（カレーの日）を決め、数名の利用者とともにカレー作りをすることで基本的生活能力の向上を図った。

また、月に3回散歩を兼ねて歩道の掃除をする「あかしあクリーン隊」を前年度に引き続いて継続し、足腰の強化と気分転換、地域貢献に努めることが出来た。

なお、地域交流事業としては、はまたけ TetoTe、あかしあまつり、松浪地区福祉ふれあいまつり、茅作連ふれあい交流会、小和田公民館まつり等に参加した。

イ 作業指導

個別支援計画に則って利用者一人ひとりの特性を配慮した作業内容を設定し提供した。その能力に応じた製作品を商品化するため、職員間で話し合い商品化することが出来た。自分が作ったものが商品化されることで、日常生活に生きがいを感じてもらえるように努めた。同時に共同作業による人間関係の育成に努めた。

なお、自主製品作業内容は、機織品製作（座布団、足拭きマット、マフラー、バッグ、携帯ストラップほか）、木工品製作（季節飾り等のコレクションボックス、ティッシュボックス、小物入れ、コースター、携帯ストラップ、キーホルダー、フォトフレームほか）を行った。

(10) 生産活動と工賃

ア 収入

年度	自主製品 収入	軽作業 収入	総収入	必要経費	工賃年間 総支給額	月一人 平均額
平成 28 年度	1,344,158 円	17,020 円	1,361,178 円	234,494 円	922,200 円	3,843 円
平成 29 年度	1,314,618 円	0 円	1,314,618 円	160,230 円	913,200 円	3,805 円
前年度比較	-29,540 円	-17,020 円	-46,560 円	-74,264 円	-9,000 円	-38 円

イ 収入と工賃の概要

入所後2年目、3年目、4年目の経験の少ない利用者個々に寄り添い、具体的な指導をしながら、作業や製品づくりを覚えてもらうことを心掛けた。また、年間を通して製作する数量を決めて、計画的に無理なく作業することができた。例年通りの販売努力や新商品の開発を行い、自主製品の販売額を前年並に繋げることができた。（新商品→ピアノ鍵盤カバー、ペンケース、メガネケース、ズバゲッティ（組紐）ストラップ、組紐ネームホルダー、オリジナルバック）

なお、利用者工賃は生産活動収入から必要経費を差し引いた金額である。利用者一人ひとりの工賃の基本月給は、作業能力・作業意欲などを考慮して決定し、2ヵ月分ごと年6回（6月、8月、10月、12月、2月、翌年度4月）支給した。また、7月と12月にボーナスを支給し、さらに年度末生産活動予算残額から翌年度当初資金を差し引いた金額を、翌年度4月に年6回

の支給とは別に年度末ボーナスとして利用者へ支給した。

(11) 防災

施設の消防計画及び地震防災応急計画に基づき、次のとおり防災避難訓練等を実施した。

実施年月日	想定状況	参加人員		計	内 容
		利用者	職員		
29年5月22日	地震による津波避難訓練	18	9	27	地震による津波を想定。隣接マンション3階踊り場に避難。
29年9月26日	避難所への避難訓練	14	8	22	広域避難所である松浪小学校へ避難。
30年1月25日	火災避難訓練	20	7	27	厨房より出火を想定。作業室より庭に出てマンション前に避難

(12) その他

ア年間スケジュール

事業計画の予定を一部変更、次のとおり実施した。

月	日	あかしあ行事・法人行事等	日	地域行事等への参加
4	19	保護者懇談会	23	春の市民まつり
5	22 24 月中	防災避難訓練（津波避難） 歩き遠足（辻堂海浜公園） 利用者個別面談		
6	27 月中	エアロビクス 保護者面談	2～11 5～16	浜竹 TetoTe 茅作連ふれあい作品展
7	5 31	あかしあネットワーク会議 スイカ割り		
8	11 16 23	事業団ふれあい交流会 テラスモールへ散策 保護者懇談会		
9	16 26	あかしあまつり 防災避難訓練（避難所へ避難）	4～8 24	茅ヶ崎寒川障害者作品展示即売会（イオン茅ヶ崎中央店） 松浪地区福祉ふれあいまつり
10	4 月中	事業団スポーツ大会 利用者個別面談・保護者面談	6	共同募金活動参加(茅ヶ崎駅改札口)
11	18 30	つつじ学園祭 バス遠足（オーヴィ横浜）	3 10	市民ふれあいまつり 茅作連ふれあい交流会
12	26 27	お楽しみ会（もちつき中止） 大掃除	27～8 7	茅作連ふれあい作品展 障害者週間街頭キャンペーン

1	4 11 25	新年交歓会・エアロビクス・初詣 鏡開き 防災避難訓練（火災を想定）		
2	6 13 22	あかしあネットワーク会議 ボウリング大会 保護者懇談会		
3	14 月中	公共交通機関遠足（いすず自動車見学） 利用者個別面談・保護者面談	3 5～9	小和田公民館まつり 茅ヶ崎寒川障害者作品展即売会（イオン茅ヶ崎中央店）
その他行事		カレーの日（月 1 回実施） クリーン隊（基本月 3 回実施）	その他 展示 販売	福祉会館（年 4 ヶ月間） サザンポ（通年）

イ 車両の運行状況

セレナ

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計	平均
走行距離 (km)	885	880	1,056	858	1,030	862	953	917	865	784	819	936	10,845	903.8
運行日数 (日)	21	20	25	20	23	21	21	22	20	19	19	22	253	21.1
走行距離 (1日当たり)	42.1	44.0	42.2	42.9	44.8	41.0	45.4	41.7	43.3	41.3	43.1	42.5		42.9

バイク

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計	平均
走行距離 (km)	37	56	110	100	15	84	94	117	91	130	69	83	986	82.2

3 29年度重点目標の達成状況と評価

	重点目標	達成状況と評価
(1)	創作的生産活動のほかに、余暇的活動、所外活動を充実させて、利用者一人ひとりの基礎的生活力を高める。	利用者20名（車椅子2名）が落ち着いて製作活動ができるように、個々の作業位置、場所を少しでも広く工夫し、安全に活動できるように環境整備に努めた。余暇活動では、新たに月1回「歌の日」を設けて、楽しい時間を過ごすことができた。年間を通して計画的に所内・所外行事を実施し、充実した日々を過ごすと共に利用者一人ひとりの基礎的生活力を高めることができた。

(2)	利用者同士の障害特性の理解を促進して、尊重し合い、安心できる生活環境を整える。	利用者同士上手にコミュニケーションがとれることは、日々気持ちが安定して生活していく上でとても大切なことである。利用者同士、他者を理解（尊重）して対応することは難しいことであるが、様々な機会を捉えて、互いの障害特性の理解を図り、利用者自身で問題解決できるように意識させ、助言、見守りを継続的に行った。互いの関係性が良くなってきている。これからも継続して助言、見守り、環境整備等を進めていく。
(3)	所内や所外での研修に積極的に参加し、その成果を情報共有することで、障害者への理解を高め、状況に応じたきめ細かい支援に繋げる。	研修参加職員が研修内容を職員会議で伝達し、本施設利用者の実態に合わせた支援についての考え方や具体的な支援方法、権利擁護等について年間を通して全職員で情報共有を行った。 職員の倫理意識を高めることができ、研修の共通理解が利用者へのきめ細かな支援に繋がっている。
(4)	避難訓練を実施し、事件、事故、災害などへの対応を迅速かつ適正に行えるよう、利用者、職員、保護者の防災意識を高める。	津波を想定した隣接マンション3階への避難、火災を想定した施設外への避難、松浪小学校広域避難場所への避難訓練を実施した。利用者、職員とも緊張感を持って充実した訓練ができた。継続的に避難訓練を実施することで、利用者全員が以前よりも、スムーズに対応ができ、防災意識を高めることができた。

ふれあい活動ホーム第2あかしあ事業報告

1 事業の概要

(1) 基本方針

障害を持つ人が、働きながら住み慣れた地域で自立した生活ができるよう、それぞれの能力に応じた支援計画を作成し支援する。利用者の個性や障害特性を尊重した、心のかよいあうサービスを基本とした施設運営に努めていく。

(2) 施設の概要

ア 定員 就労継続支援B型 25名

イ 位置と規模

(ア) 所在地 茅ヶ崎市十間坂一丁目4番8号

(イ) 敷地面積 1,232.86 m²

(ウ) 建物構造 鉄骨造り一部3階建て

(エ) 建物面積 996.67 m²

(オ) 作業室 一階作業室 184 m²

ウ 事業所指定

(ア) 法的根拠 障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律

(イ) 事業指定者 神奈川県知事

(ウ) 事業所番号 1412400507

(エ) 指定日 平成21年4月1日

2 管理・運営

(1) 職員配置（平成30年3月31日現在）

職名	人員	常勤換算	備考
管理者（施設長）	1	0.5	サービス管理責任者兼務
サービス管理責任者		0.5	管理者兼務
生活支援員	1	1	
職業指導員	8(8)	3.6	
計	10(8)	5.6	

※ ()は非常勤職員の内数

(2) 職員研修

研修会などの名称	主催	日数	延人数
障害者権利条約研修会	神奈川県身体障害者連合会	1	1
新泉こころのクリニック Dr. による研修会	つつじ学園	2	6
非正規職員研修会	神奈川県社会福祉協議会	1	1
発達障害者への関わり	茅ヶ崎市社会福祉協議会	1	1
茅ヶ崎市障害者施設連絡会研修	茅ヶ崎市障害者施設連絡会	1	1

施設内職員研修（差別解消法と合理的配慮）	ふれあい活動ホーム第2あかしあ	1	8
合計		7	18

(3) 会議

会議の名称	回数
茅ヶ崎市障害者施設連絡会	7
障害者週間街頭キャンペーン打合せ・下見等	6
さぶれ会議	7
茅ヶ崎市自立支援協議会	
社会参加支援部会（定例会・事前打ち合わせ）	6
社会参加支援部会（当事者とのイベント参加関係）	10
運営会議	4
余暇支援ネットワーク会議 （ちゃんぷる一音楽祭実行委員会）	6
光の風 地域ネットワーク会議	4
利用者関連機関とのケース会議	17
実習生受入れに関するもの	5

(4) 懇談会

利用者及び保護者等に向けて作業や行事などの運営の様子について報告を行うこと、課題の共有・連携の確認などを行うこと、保護者同士の意見・情報交換などを目的として、4月と11月の2回実施した。

日時	利用者	保護者	職員
4月27日	28	12	6
11月15日	25	8	6

(5) 利用者の状況

ア 月別入退所者数

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
入所	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
退所	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	2
月末在籍者数	31	30	30	30	30	29	29	29	29	29	29	29	354

イ 年齢別・性別分類（平成30年3月1日現在）

年齢 性別	18～29	30～39	40～49	50～59	60～	計
男性	4	5	6	6	2	23
女性	0	0	3	1	2	6
計	4	5	9	7	4	29

ウ 出席状況

月		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
要通所日数		20	20	23	20	21	20	23	21	20	19	19	21	247
延在籍数		620	606	690	600	630	580	667	609	580	551	551	609	7,293
延出席者数		541	552	614	554	548	540	563	524	515	468	520	543	6,482
分 析	一日平均 出席者数	27.1	27.6	26.7	27.7	26.1	27	24.5	25.0	25.8	24.6	27.4	25.9	26.3
	出席率 (%)	87.3	91.1	89.0	92.3	87.0	93.1	84.4	86.0	88.8	84.9	94.4	89.2	88.9

前年度比 年間出席者数 -71 人（一日平均 -0.3 人、年間出席率 +4.5%）

○ 出席率の変動理由

- ・ 4 月に利用を開始した方は、障害特性から週 2 回の利用でスタートした。その後、1 月より週 3 回の利用に増やした。
- ・ 毎日出席していた方が、保護者の入院により短期入所を利用したため、11・12 月はひと桁の出席となった。
- ・ 毎日出席していた高齢の方が、体調不良で 11 月半ばより週 3 回に出席調整している。
- ・ 上記の方以外は、出席状況良好。在籍人数は減少したが、年間出席率は上昇した。

エ 身体障害の内訳（平成 30 年 3 月 1 日現在）

1 級	2 級	3 級	4 級	5 級	6 級	計
1※	2	—	—	—	—	3

※知的障害 B2 と重複

オ 知的障害の内訳（平成 30 年 3 月 1 日現在）

A 1（最重度）	A 2（重度）	B 1（中度）	B 2（軽度）	計
1	6	9	8	24

カ 精神障害の内訳（平成 30 年 3 月 1 日現在）

1 級	2 級	3 級	4 級	計
—	3△	2□	—	5

△うち 1 名は知的障害 A2 と重複 □うち 1 名は知的障害 B1 と重複

キ 居住地域別分類（平成 30 年 3 月 1 日現在）

区分	人数	区分	人数	区分	人数
甘沼	1	鶴が台	2	松が丘	1
円蔵	1	中島	2	室田	2
幸町	1	南湖	2	柳島	1
下町屋	1	西久保	1	矢畑	1
松林	3	萩園	3	藤沢市	1
芹沢	1	東海岸南	1		

高田	1	本宿町	1		
茅ヶ崎	1	松風台	1	計	29

ク 居住形態分類（平成 30 年 3 月 1 日現在）

家族と同居 （親と）	家族と同居 （兄弟と）	家族と同居 （本人中心）	一人暮らし	グループ ホーム	計
17 人	4 人	2	3 人	3 人	29 人

ケ 利用者の概要

4 月に数年前に就労した方が再利用を開始した。養護学校卒業生はなし。5 月に長年通われた高齢の利用者さんが亡くなられた。就労への活動を希望される方がふれあい活動ホーム赤羽根に籍を移し退所した。

将来的に就職を考えている若い方が、地道に通所・作業を重ね、作業の幅を広げると同時に、作業を進める中での連携・コミュニケーション能力を高めてきている。

一方、長く通っている利用者の中には、加齢や特性から生活支援やコミュニケーション支援・安全配慮の必要性も高まってきている。

(6) 作業と工賃

ア 利用者への工賃配分

個人作業分と全体作業分に分け、それぞれに工賃の計算をし、合算したものを毎月の工賃としている。工賃の計算方法は次のとおり。 $\boxed{\text{工賃} = \text{売上} - \text{消費税} - \text{必要経費} (\text{売上の } 3\%)}$

<個人作業>

作業単価に各通所者の出来高を乗じて工賃を算出している。

<全体作業>

個人作業以外の作業時間を 15 分 1 単位として、各通所者の一日の全体作業分の作業時間を割り出している。

個人の生活態度や作業能力を評価し、ポイントにより 3 つのグループに分け、

〔A グループ=1.5 B グループ=1.25 C グループ=1.0〕を全体作業への出席時間の合計に乘じ、ひと月分の作業時間とする。

その作業時間に作業単価を乗じて全体作業の工賃を算出する。

また、作業評価は 6 か月毎に見直しを行う。

<施設外支援>

実習日は施設への出席となるが、実習時間は作業時間に含めず、実習先からの工賃を消費税を除いた後、本人に支給している。

イ 経年の収入状況（平成 25 年度～平成 29 年度）

平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度
4,467,302	4,312,070	4,113,254	3,749,439	3,964,141

ウ 平成 29 年度軽作業 企業別収入状況

コンポー(株)	1,401,548	
SEI オプティフロンティア(株)	964,447	
(株)ワンワールド	92,439	
熊沢酒造(株)	75,538	
ふれあい活動ホーム赤羽根	224,080	
サザンポ・ミニドットコム・さぶれ	345,000	
コバシ(株)	376,875	
清掃	158,865	
湘南スプリング	28,655	
やまと紙器	79,507	
(株)ぱど	83,609	
湘南きのこ	76,164	
ふれあいまつり	57,400	合計
利息	14	3,964,141

エ 取引先及び作業内容

取引先	作業内容
コンポー(株)	ダンボール仕切りの組立て、のり貼り
SEI オプティフロンティア(株)	精密機器の部品入れ、ビニールの穴あけ 部品の個装
(株)ワンワールド	サーフボードの修理キット箱詰め等
熊澤酒造(株)	贈答用箱のラベル貼り等
ふれあい活動ホーム赤羽根	付録等の個装
サザンポ・ドットコム さぶれ	店舗型就労支援事業（就労支援に関する実習） サザンポ・ドットコム・さぶれにて販売補助業務
コバシ(株)	ボールペンの検品・贈答用箱入れ・袋入れ
湘南スプリング(株)	精密バネの検品・梱包、部品の箱解体・ホチキス外し
やまと紙器(株)	お守りづくり・箱折
(株)ぱど	情報誌“ぱど”のポスティング
湘南きのこ	しいたけの選別・袋詰め

オ 平成 29 年度施設外支援 収入状況

平成 29 年度売上	345,000 円
------------	-----------

店舗活用型就労支援事業を延べ 4 名（サザンポ 1 名、ドットコム 2 名、さぶれ 1 名）が利用したことによる。

カ 平成 29 年度清掃業務 収入状況

平成 29 年度売上	158,865 円
------------	-----------

業務実施日数 年間 241 日

キ 平均工賃

年間配分金	月額平均
3,722,318 円	10,575 円

ク 売上げの概要

受注の大半を占めるコンポー(株)のダンボール仕切り作業については、昨年度の 96%とほぼ同額の受注を維持できた。SEI(株)は新規の作業を多くいただくことができ、昨年度の 137%受注増加となった。売上が減っている企業もあるが、ふれあい祭りで昨年以上の売上を得ることができたこと、湘南きのこの椎茸袋詰め作業を増やしたことから、全体的な売上は昨年度より多くなった。

(7) 就労支援

ア 企業就労

平成 29 年度の実績はなし。

イ 職場実習

平成 29 年度の実績はなし。

ウ 施設外就労

平成 29 年度の実績はなし。

エ 施設外支援（職場実習を除く。）

施設外支援先	業務内容	回数	延べ人数
サザンポ（ドットコム）	販売補助業務	126	126
サザンポ（サザンポ）	販売補助業務	16	16
サザンポ（さぶれ）	販売補助業務	67	67
ふれあい活動ホーム赤羽根	軽作業 グループワーク参加	5	5

（前年度比 38 回、38 人の増）

オ 就労支援の概要

将来的に就労を希望する方で意欲ある 1 名について、スタートとしてさぶれの実習を提供した。その中で仕事を覚え、慣れてきたということで年度後半にサザンポの実習を始めた。ドットコムの実習については、第 2 あかしあで提供する作業と違う業種の経験の場として 2 名が活用しており、やりがいを持って積極的に取り組んでいる。

就労を意識できるよう取り組んできた方 1 名は、前年度に引き続き赤羽根への実習を行い、これを最後の実習として 9 月よりふれあい活動ホーム赤羽根へ移籍した。

(8) その他

ア 食事提供

食事については栄養士が献立を作成し、赤羽根の厨房で調理員と利用者が調理を行い、第 2 あかしあに弁当として配達されている。

イ 健康及び衛生管理

協力医療機関による通所者の健康診断を実施した。

医療機関名 高橋医院

健康診断の検査項目は次のとおり。

検査項目：尿検査、血液検査、心電図、胸部レントゲン検査、血圧測定、
身長測定、体重測定、診察所見

ウ 防災

施設の消防計画に基づき、2カ月に1回、曜日を変えて避難訓練を実施した。また、年2回（4・10月）、通報訓練と消火訓練を実施し、消防署へ訓練実施結果を報告した。

実施月日	出火想定場所	参加人員			計	内 容
		利用者	職員	実習生 ボラ等		
4月20日	喫煙所	26	5	—	31	「地震」後の「火災」を想定し、 通報及び避難・消火訓練を実施
6月9日	1階給湯室	28	7	1	36	「火災」を想定し、 通報及び避難・消火訓練を実施
8月29日	(防犯訓練)	23	6	—	29	「不審者」の正面玄関からの来館 を想定し、連絡・避難訓練を実施
10月26日	2階給湯室	23	5	—	28	「地震」後の「火災」を想定し、 通報及び避難・消火訓練を実施
12月26日	喫煙所	25	6	1	32	「火災」を想定し、 通報及び避難・消火訓練を実施
2月15日	なし	23	7	—	30	「地震」後の「津波」を想定し、 通報及び避難訓練を実施

エ 年間行事

事業計画に基づき次のとおり実施した。

区 分	行事内容
4月27日（木）	懇談会
5月19日（金）～7月10日（月） 8月4日（金）、11月24日（金）	健康診断
5月11日（木）	芋の苗植え
6月10日（土）	十間坂自治会防災訓練
8月11日（金・祝）	事業団ふれあい交流会
8月14・15日（月・火）	夏季休業
9月	利用者面談
10月	保護者面談
10月4日（水）	事業団ふれあいスポーツ大会
10月14日（土）	茅ヶ崎地区防災訓練

10月21日(土)	きらきらちゃんぷる音楽祭
10月26日(水)	芋掘り
11月3日(金・祝)	市民ふれあいまつり
11月15日(水)	懇談会
12月28日(木)	大掃除
1月4日(木)	お楽しみ新年会
2月～3月	保護者面談
1月22日(月)	社会見学 (花王工場見学、川崎マリエン)
2月5日(月)	豆まき
3月	利用者面談

オ 車両の運行状況

エブリイ

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計	平均
走行距離 (km)	200	255	258	161	199	159	232	213	171	182	182	200	2,412	201
運行日数 (日)	19	20	22	17	19	14	18	18	17	15	16	19	214	17.8
1日平均 走行距離 (km)	10.5	12.8	11.7	9.5	10.5	11.4	12.9	11.8	10.1	12.1	11.4	10.5		11.3

プロボックス

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計	平均
走行距離 (km)	94	110	179	132	113	84	107	199	219	59	71	74	1,441	120.1
運行日数 (日)	9	12	16	14	13	13	10	17	16	8	9	11	148	12.3
1日平均 走行距離 (km)	10.4	9.2	11.2	9.4	8.7	6.5	10.7	11.7	13.7	7.4	7.9	6.7		9.5

※ 1～3月はドア部分不具合のため使用を控えた。

3 平成 29 年度の重点目標の達成状況と評価

	重点目標	達成状況と評価
(1)	職員の資質向上を目標に、職員は研修に積極的に参加する。虐待防止や利用者本位のサービス提供についての理解を深め、日々の支援に活用する。	4・5・6月に1名ずつ非常勤職員を採用したが、7月からの産休職員の代わりの職員が補充できず、積極的な研修への参加が難しかった。その中でも権利擁護や発達障害の研修へは参加し、全職員に伝達した。利用者の気持ちや行動に対応する中で必要とされる差別解消や障害理解については、会議や打ち合わせの中で昨年度以上に情報周知や意見交換の機会を多く設け、意識の共有を図った。
(2)	様々な作業品目を積極的に受注し、利用者の個々の特性や能力に合った作業を提供する。昨年度取り組んだ作業マニュアルを検証し、実用化する。	前年度に引き続き、様々な作業で受注の拡大に努めた。また、新しい工程に挑戦したり、工程を細分化したりするなど、利用者個々の特性や能力に合わせて「できる」を増やすことに積極的に取り組んだ結果、利用者の作業への興味が感じられるようになった。作業マニュアルについては、受注開始から作業内容に変更がない1品種について、利用者への説明・確認や職員間の共有に使用できるものが出来上がった。
(3)	見学やボランティアを積極的な受け入れや、地域への行事に参加を行うことのほか、地域の方へ施設を公開する日を設ける。地域における施設への理解や認知度を向上させる。	昨年度から受け入れている週1回のボランティアさんに加え、週3回の方、単発で数回来ていただいた方など、延べ4名の受け入れができた。コミュニケーションを楽しんだり、作業に励みが出るなど、利用者も気持ちよく取り組むことができていた。 地域行事への参加に加えて施設公開日には地域の自治会長・民生委員等の皆さんにご出席いただき、施設の活動や利用者への理解啓発を図ることができた。

あっとほーむ小和田事業報告

(※あっとほーむ小和田は、小和田と松が丘の両方を含んだ事業所の名称)

1 事業の概要

(1) 基本方針

利用者が地域において共同して、基本的人権を享有する個人としての尊厳にふさわしい日常生活又は社会生活を営むことができるよう、当該利用者の身体及び精神の状況並びにその置かれている環境に応じて共同生活住居において入浴、排せつ、及び食事等の介護、相談その他の日常生活上の支援を適切かつ効果的に行う。一人ひとりの人権を尊重し、個々の特性とニーズに即した、心のかよいあうサービスを提供する。

(2) 施設の概要

ア 事業の内容と定員

(ア) 事業の内容 共同生活援助

(イ) 定員 小和田 5 名、松が丘 5 名

イ 位置と規模

名称	所在地	建物構造	建物面積
あっとほーむ小和田	茅ヶ崎市小和田三丁目 3 番 3 号	木造 2 階建て	123.84 m ²
あっとほーむ松が丘	茅ヶ崎市松が丘二丁目 11 番 25 号	木造 2 階建て	125.58 m ²

ウ 事業所指定

(ア) 法的根拠 障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律

(イ) 事業指定者 神奈川県知事

(ウ) 事業所番号 1422400711

(エ) 指定日 平成 24 年 7 月 1 日

2 管理・運営

(1) 職員配置 (平成 30 年 3 月 31 日現在)

職名	人員	常勤換算	備考
管理者	1	0.2	赤羽根管理者兼務
サービス管理責任者	1	0.4	ぐっじょぶ矢畑兼務
生活支援員	1(1)	0.5	赤羽根兼務
世話人	7(7)	5.6	一日の勤務時間 15.5 時間
計	10(8)	6.7	

※ () は非常勤職の内数

(2) 職員研修

職員の資質向上を目的として研修会に参加した。参加状況は次のとおり。

研修会などの名称	主催	日数
グループホーム制度の理解～障害者総合支援法の基礎と今後の展開～	かながわ福祉サービス振興会	1
行動援護従業者養成研修	翔の会	4
自閉症の理解～障害特性とグループホームでの関わり方	かながわ福祉サービス振興会	1
精神障害の障害性～生活のしづらさの理解とグループホームの関わり方	かながわ福祉サービス振興会	1
行動障害の理解～問題行動の捉え方とグループホームの関わり	かながわ福祉サービス振興会	1
障害者グループホームの高齢化について	かながわ福祉サービス振興会	1

感情労働者としての対人援助～グループホーム職員のメンタルヘルス～	かながわ福祉サービス振興会	1
利用者の思いに寄り添った支援とは～グループホームにおける個別支援のポイント～	かながわ福祉サービス振興会	1
障害の権利擁護～グループホーム職員としてできること～	かながわ福祉サービス振興会	1
障害者グループホーム サービスの振り返り（自己評価）研修会	福）神奈川県社会福祉協議会	1
日頃の支援を見直そう～発達障害編～	茅ヶ崎市社会福祉協議会	1

(3) 会議

会議の名称	回数
茅ヶ崎市自立支援協議会地域生活支援部会	6
茅ヶ崎・寒川ホーム連絡会	3

この他、世話人間の連携、情報共有を目的として世話人会議を毎月開催した。

(4) 支援の内容

利用者に対する相談、入浴、排せつ又は食事等の介護、健康管理・金銭管理の援助、余暇活動の支援、緊急時の対応、職場等との連絡・調整、財産管理等の日常生活に必要な援助を行った。

(5) 利用者の状況

ア 契約人数 10名

イ 障害の種別

知的	B 2	7名
	B 1	3名

ウ 月別入退居者数

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
入居		1										1	2
退居									1				1
月末在籍者数	9	10	10	10	10	10	10	10	9	9	9	10	

エ 年齢別・性別分類（平成30年3月31日現在）

年齢 性別	18～29	30～39	40～49	50～59	60～69	70～79	計
男	3	1	—	—	1	—	5
女	4	—	—	—	1	—	5
計	7	1	—	—	2	—	10

(6) その他

ア 食事提供

栄養価等を踏まえ利用者の嗜好を考慮し、世話人が作るあたたかい食事を朝と晩に提供した。

イ 防災

利用者の安全確保を第一とし、消防、消火関係法令に基づき、次のとおり訓練を実施した。

実施月日	場所	出火想定場所	参加人員			計	内 容
			利用者	職員	その他		
7月15日	松が丘	食堂	5	1	—	6	火災を想定した消火・避難訓練
8月12日	小和田	食堂	3	1	—	4	火災を想定した消火・避難訓練

ウ 行事

事業計画に基づき、誕生日会、ディズニースーパードリームス旅行、流しそうめん大会、外食、クリスマス会、利用者さん世話人さん合同忘年会、いちご狩りとボーリング大会、江の島水族館日帰り旅行、お花見、お別れ会などの行事を行った。

3 平成29年度重点目標の達成状況と評価

	重点目標	達成状況と評価
(1)	利用者の思いを確かめる 定期的に面談を行い、生活について話し合い、状況を聞き取り、利用者の思いを確かめ、支援に反映させる。	3か月に1回の定期面談のほか、必要に応じて面談を行い、利用者の思いを確かめた。月1回行う世話人会議にて利用者の思いを共有し、統一した支援を行った。
(2)	利用者同士がお互いを理解する 自分自身の障害を理解し、他の利用者の障害も知ることで、お互いが支え合って生活できるよう支援する。	面談のなかで自身の障害について理解が深まるよう支援した。利用者同士でトラブルなどがあった際は、相手の方の障害を説明し理解を促した。利用者同士の理解が深まり、トラブルの解決につながった。
(3)	利用者の防災意識を高める 防災訓練を通して災害に対する想像を膨らませ、様々な事態に対応できる準備をする。	火災を想定した消火・避難訓練を実施し、利用者の防災意識を高めることができた。

平成29年度 相談支援センターつみき 事業報告

1 事業の概要

(1) 基本方針

障害児・者及び保護者等の意思を尊重し、基本的人権を享有する個人としての尊厳にふさわしい日常生活又は社会生活を営むことができるよう支援する。障害児・者の抱える課題の解決や適切なサービス利用に向け、ケアマネジメントによりきめ細かく支援する。

(2) 施設の概要

ア 位置と規模

(ア) 所在地 茅ヶ崎市松が丘二丁目8番51号

(イ) 使用面積 10.8㎡

(ウ) 建物構造 鉄筋コンクリート2階建て（一部使用）

イ 事業所委託・指定

(ア) 茅ヶ崎市相談支援事業（委託）

(イ) 指定障害児相談支援事業（指定）

(ウ) 指定特定相談支援事業（指定）

(エ) 障害支援区分認定調査（委託）

2 管理・運営

(1) 職員配置（平成30年3月31日現在）

区分	センター長	相談支援専門員	事務補助員
人数	1	2（1）	1

（ ）は兼務

(2) 職員研修

研修名	主催者名	日数	延人数
「学齢期における発達障害児支援について」	県発達障害者支援センター	1	1
「こどもの発達の評価と発達障害」	相談事業所連絡会	1	2
茅ヶ崎養護学校公開研修会	茅ヶ崎養護学校	1	1
新泉こころのクリニックDrによる研修会	つつじ学園	1	2
「日ごろの支援を見直そう」～発達障害編～	茅ヶ崎市社会福祉協議会	1	2
	合計	5	8

*このほか、月2回茅ヶ崎市の派遣により発達障害専門相談員の巡回相談を受けた。

(3) 会議

地域、関係機関との連携、情報共有を目的として会議に出席した。

会議の名称	回数
茅ヶ崎市・寒川町相談支援事業所連絡会定例会	12
茅ヶ崎市自立支援協議会 代表者会議	3
茅ヶ崎市自立支援協議会 運営委員会	10
茅ヶ崎市自立支援協議会 そだちの支援部会	3
茅ヶ崎市自立支援協議会 社会参加支援部会	3
茅ヶ崎市自立支援協議会 地域生活支援拠点部会	4
茅ヶ崎市自立支援協議会 当事者部会準備会	2
茅ヶ崎市障害者保健福祉計画推進委員会	5
平成29年度 相談支援ネットワーク会議	4
あかしあネットワーク会議	2
茅ヶ崎市成年後見支援ネットワーク連絡協議会	6
在宅重症心身障害児関係機関連絡会議	1
療育連絡会	1
障害児の通学送迎についてのネットワーク会議	4
地域医療福祉連絡会	1
湘南東部障害保健福祉圏域自立支援協議会	3
重度障害者の医療ケアに関する連絡会	1

(4) 事業の内容

ア 相談件数・割合

		相談方法				相談者			年齢		地域	
月	件数	電話	面接	訪問	その他	本人	家族	機関等	18歳未満	18歳以上	市内	市外
4	135	93	14	28	0	26	54	55	81	54	135	0
5	120	95	5	16	4	29	38	53	59	61	120	0
6	167	142	8	17	0	42	44	81	90	77	167	0
7	139	102	8	14	15	25	62	52	87	52	139	0
8	141	93	26	22	0	14	61	66	95	46	141	0
9	140	109	15	15	1	22	49	69	77	63	140	0
10	149	119	16	14	0	17	53	79	78	71	149	0
11	161	116	21	24	0	15	71	75	107	54	161	0
12	139	97	16	26	0	26	54	59	82	57	139	0

1	143	116	10	17	0	32	49	62	55	88	143	0
2	191	158	13	20	0	31	62	98	105	86	191	0
3	201	160	15	26	0	26	70	105	126	75	201	0
計	1,826	1,400	167	239	20	305	667	854	1,042	784	1,826	0
割合	100%	76.7%	9.1%	13.1%	1.1%	16.7%	36.5%	46.8%	57.1%	42.9%	100%	0%

28 年度 相談件数・割合 (参考資料)

	件数	相談方法				相談者			年齢		地域	
		電話	面接	訪問	メール	本人	家族	機関等	18歳未満	18歳以上	市内	市外
計	1,667	1,309	78	259	21	248	694	725	1,011	656	1,664	3
割合	100%	78.5%	4.7%	15.5%	1.3%	14.9%	41.6%	43.5%	60.6%	39.4%	99.8%	0.2%

イ 相談内容別件数

機関連携による相談	8 3 7 件
福祉サービスの利用援助	2 4 3 件
社会資源を活用するための支援	4 5 8 件
社会生活力を高めるための支援	2 3 3 件
ピアカウンセリング	1 5 件
専門機関の紹介	1 3 件
上記以外の相談	2 7 件
合 計	1, 8 2 6 件

ウ 障害別相談件数

精神障害	3 7 1 件
身体障害	4 件
知的障害	5 9 0 件
発達障害	5 9 6 件
重複（知的・身体）	2 6 5 件
合 計	1, 8 2 6 件

エ 障害児支援利用計画及びサービス等利用計画の作成件数

	障害児支援 利用計画	継続障害児支援 利用計画	サービス等 利用計画	継続サービス等 利用計画
4 月	1 7 (8)	1 4 (5)	0	1
5 月	5 (5)	1 1 (6)	0	0
6 月	8 (5)	1 1 (4)	3	0

7月	11 (7)	10 (0)	1	0
8月	11 (3)	12 (4)	0	1
9月	9 (4)	14 (3)	2	1
10月	13 (5)	18 (9)	0	1
11月	12 (7)	7 (1)	0	0
12月	8 (5)	9 (3)	0	3
1月	9 (4)	9 (6)	0	0
2月	4 (0)	14 (3)	0	1
3月	12 (2)	14 (4)	1	3
29年度合計	119 (55)	143 (48)	7	11
28年度合計	115 (47)	128 (43)	4	13

()はつつじ学園以外の作成件数

オ 認定調査の件数

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
29年度	3	2	1	2	2	5	2	5	6	6	3	4	41
28年度	1	0	4	3	3	3	3	7	3	4	3	3	37

(5) 相談支援

ア 専門的な相談支援を要するケース等への対応及び相談支援機能の強化

市障害福祉課ケースワーカーや家庭児童相談室、中央児童相談所、学校、サービス提供事業所、発達障害専門相談員、発達障害者地域支援マネージャーなどと連携を図り不登校や不適応行動などのケースや家族に対しての支援を行った。

イ 福祉サービスの利用援助

申請手続きの同行や助言、代行などのサポートを行った。

計画相談に対応ができなかったケースについてセルフプランのサポートを行った。

ウ 社会資源を活用するための支援

事業所の特色などの情報を収集し、よりよい事業所を選択できるよう同行や事業所との調整、事業所間の調整などの支援を行った。

エ 社会生活力を高めるための支援

小学生の保護者向けに茶話会形式で「将来に向けて子どものうちから準備しておきたいこと」というテーマで講演会を開催した。また、講演後ピアカウンセリングを実施し、日ごろ抱えている育児の悩みを相談できる機会もつくった。また、異年齢のお子さんを持つ親同士が育児の困り感や悩みを共有し共に学びあい、親子のより良い関係が築けるよう小学生の保護者向けにペアレントトレーニングを実施した。成人については就労者や離職者、在宅生活者へ年間を通じて継続した支援を行った。相談内容は、健康管理、事業所や職場への不満（対人関係や作業環境など）、家族関係（家族から理解を得られないなど）、余暇（休日の過ごし方など）、家事（一人暮らしの炊事や掃除など）、引越し、金銭管理などの内容を通して社会生活能力を高める支援を行った。

3 平成29年度の重点目標の達成状況と評価

	重点目標	達成状況と評価
(1)	職員を1名増員し、障害児支援利用計画を作成できる職員を育成する。	7月より1日2時間かめっこくらぶと兼務の非常勤職員を雇用した。資格未取得者であったため、モニタリング作成補助業務を通して育成にとどまり、障害児支援利用計画を作成できる職員の育成までには至らなかった。つみきが設立され5年6ヶ月が経過した。設立以来2名の同じ職員で計画作成を行ってきており人材の育成が継続した大きな課題になっている。
(2)	保護者向け、親子向けの講座を開催する。	地域の保護者向けに講演会を行った。15名参加し、うち4名の保護者から希望がありペアレントトレーニングを実施した。つつじ学園の集会室を使用し夏休みの土曜日に親子向けの講座としてムーブメントを2回実施し各4組の参加があった。「思っていた以上に参加ができた。」と参加者全員が親子で楽しく参加し、達成感や成功体験の場となった。
(3)	第5期茅ヶ崎市障害者保健福祉計画づくりへの参画や地域の会議に積極的に出席し、障害のある人やその家族のニーズを行政や事業所に提供し、利用者サイドに立ったより良い施策へ寄与する。	平成30年度の第5期茅ヶ崎市障害者保健福祉計画施行にむけ茅ヶ崎市障害者保健福祉計画推進委員として年5回の会議に出席した。昨年度は14の地域の会議に計61回出席した。今年度は17の会議に計65回出席した。自立支援協議会そだちの支援部会の事務局として、市内共通のフェイスシート「そだちのいっぽ」を作成した。また、ご家族や行政機関などの防災対策の一助となる医療的ケア児の災害時の備えについてまとめた。

ぐっじょぶ矢畑事業報告

1 事業の概要

(1) 基本方針

障害を持つ人が、働きながら住み慣れた地域で自立した生活ができるよう、それぞれの能力に応じた支援計画を作成し支援する。利用者の個性や障害特性を尊重した、心のかよいあうサービスを基本とした施設運営に努めていく。

(2) 施設の概要

ア 定員 就労継続支援B型 20名

イ 位置と規模

(ア) 所在地 茅ヶ崎市矢畑 262-2

(イ) 敷地面積 213.20 m²

(ウ) 建物構造 鉄骨造り一部3階建て

(エ) 建物面積 128.58 m²

(オ) 作業室面積 1階 48.40 m² 2階 35.56 m²

ウ 事業所指定

(ア) 法的根拠 障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律

(イ) 事業指定者 神奈川県知事

(ウ) 事業所番号 1412401034

(エ) 指定日 平成29年4月1日

2 管理・運営

(1) 職員配置（平成30年3月31日現在）

職名	人員	常勤換算	備考
管理者（施設長）	1	0.2	
サービス管理責任者		0.4	あっとほーむ小和田兼務
生活支援員	1(1)	0.8	
職業指導員	3(1)	1.8	事務局兼務
計	5(2)	3.2	

※（ ）は非常勤職員の内数

(2) 職員研修

研修会などの名称	主催	日数	延人数
新泉こころのクリニック Dr. による研修会	つつじ学園	2	2
行動障害の理解	かながわ福祉サービス振興会	1	1

(3) 会議

会議の名称	回数
茅ヶ崎市障害者施設連絡会	4
茅ヶ崎市地域福祉計画推進委員会	3

(4) 懇談会

利用者及び保護者等に向けて作業や行事などの運営の様子について報告を行うこと、課題の共有・連携の確認などを行うこと、保護者同士の意見・情報交換などを目的として、4月と3月の2回実施した。

日時	利用者	保護者	職員
4月 4日	0	5	1
3月 23日	0	5	1

(5) 利用者の状況

ア 月別入退所者数

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
入所	6	2	1	0	1	0	0	2	1	0	0	0	13
退所	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
月末在籍者数	6	8	9	9	10	10	10	12	13	13	13	13	126

イ 年齢別・性別分類（平成 29 年 3 月 1 日現在）

年齢 性別	18～29	30～39	40～49	50～59	60～	計
男性	6	2	0	2	1	11
女性	0	1	1	0	0	2
計	6	3	1	2	1	13

ウ 出席状況

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
要通所日数	20	20	22	20	19	20	21	20	20	19	19	21	241
延在籍数	120	160	198	180	190	200	210	240	260	247	247	273	2,525
延出席者数	111	138	167	162	154	170	177	200	210	191	180	188	2,048
分析 一日平均出席者数	5.5	6.9	7.5	8.1	8.1	8.5	8.4	10.0	10.5	10.0	9.47	8.95	8.49
出席率(%)	92.5	86.2	84.3	90.0	81.0	85.0	84.2	83.3	80.7	77.3	72.8	68.8	81.1

エ 身体障害の内訳（平成 30 年 3 月 1 日現在）

1 級	2 級	3 級	4 級	5 級	6 級	計
1	1	1	—	1	—	4

オ 知的障害の内訳（平成 30 年 3 月 1 日現在）

A 1（最重度）	A 2（重度）	B 1（中度）	B 2（軽度）	計
—	5	2	1	8

カ 精神障害の内訳（平成 30 年 3 月 1 日現在）

1 級	2 級	3 級	4 級	計
1	—	—	—	1

キ 居住地域別分類（平成 30 年 3 月 1 日現在）

区分	人数	区分	人数	区分	人数
萩園	3	浜之郷	2	松尾	1
行谷	1	茅ヶ崎	2	松林	1
円蔵	1	みずき	1	甘沼	1
				計	13

ク 居住形態分類（平成 30 年 3 月 1 日現在）

家族と同居 （親と）	家族と同居 （兄弟と）	一人暮らし	グループホーム	計
10 人	1 人	0 人	2 人	13 人

ケ 利用者の概要

4 月に茅ヶ崎養護学校から 3 名、赤羽根から 2 名、企業離職者 1 名が利用開始。5 月に他事業所併用 1 名、他事業所から 1 名が利用開始。6 月に赤羽根から 1 名が利用開始。8 月に他事業所から 1 名利用開始。11 月に他事業所から 1 名、病院退院者 1 名が利用開始。12 月に他事業所併用 1 名が利用開始した。

(6) 作業と工賃

ア 利用者への工賃配分

利用者への工賃は工賃収入を各人の評価ポイントと出席率に応じて配分している。
計算方法は次のとおり。

- ① 工賃収入＝売上－消費税－必要経費（売上の 5%）
- ② 勤務態度、作業能力等に応じた各人の評価ポイントを作成する。（半期に 1 度）
- ③ 工賃収入÷上記ポイントの合計＝1 ポイント当たりの工賃（小数点以下第 2 位）
- ④ 1 ポイント当たりの工賃×各人の評価ポイント×各人の出席率＝工賃配分金

イ 平成 29 年度軽作業 企業別収入状況

取引先	金額
ふれあい活動ホーム赤羽根	674,711 円
湘南きのこ	7,538 円

高野商店	119,800 円
寒川紙業	55,980 円
合計	858,029 円

ウ 取引先及び作業内容

取引先	作業内容
ふれあい活動ホーム赤羽根	段ボール仕切組立、魚の目パットなど
湘南きのこ	椎茸袋詰め
高野商店	雑誌付録袋詰め
寒川紙業	古紙回収

エ 平均工賃

年間配分金	月額平均
778,939 円	6,333 円

オ 売上げの概要

ふれあい活動ホーム赤羽根から受注作業を中心に行った。年度途中で高野商店から雑誌付録袋詰め作業を直接受注することで、安定した作業量と収入を確保することができた。湘南きのこは単価設定が低かったため取引を中止した。

(7) 就労支援

- ア 企業就労 実績なし
- イ 職場実習 実績なし
- ウ 施設外就労 実績なし
- エ 施設外支援 実績なし

(8) その他

ア 食事提供

(株)山路フードシステムの仕出し弁当を提供し、楽しく食事ができるよう環境等を配慮した。

イ 健康及び衛生管理

協力医療機関による通所者の健康診断を実施した。

医療機関名 高橋医院

健康診断の検査項目は次のとおり。

検査項目：尿検査、血液検査、心電図、胸部レントゲン検査、血圧測定、身長測定、体重測定、診察所見

ウ 防災

施設の消防計画及び地震防災応急計画に基づき、次のとおり防災避難訓練等を実施した。

実施月日	出火想定場所	参加人員			計	内 容
		利用者	職員	実習生等		
5 月 2 日	1 階事務所	4	2	—	6	「火災」を想定し、避難及び消火訓練を実施

9月20日	—	9	2	—	11	避難場所確認 鶴嶺小、鶴嶺中ヘルート確認
9月29日	—	8	2	—	10	「地震」を想定し、避難訓練を実施

エ 年間行事

事業計画に基づき次のとおり実施した。

実施日	行事内容
8月11日（金）	事業団ふれあい交流会
10月4日（水）	事業団合同スポーツ大会
10月26日（水）	芋掘り
12月7日（木）	障害者週間街頭キャンペーン

オ 車両の運行状況

キャリー

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計	平均
走行距離 (km)	175	279	240	253	266	225	316	210	194	134	181	107	2,580	215
運行日数 (日)	11	19	15	14	16	18	18	13	12	11	10	8	165	13.8
1日平均 走行距離 (km)	15.9	14.6	16.0	18.0	16.6	12.5	17.5	16.1	16.1	12.1	18.1	13.3		15.6

3 平成29年度の重点目標の達成状況と評価

	重点目標	達成状況と評価
(1)	事業所の初年度として、生じた課題を利用者の立場に立って対処し、利用者・保護者・地域から評価される事業所を目指す。	利用者間の些細なトラブルが多くあったが、作業環境に配慮したり、必要に応じた面談を行い各々の思いを確認し利用者の立場に立って対処した。初年度に13名が入所したことは地域から一定の評価が得られたと考える。
(2)	利用者が得る工賃の水準を高めるよう努め、1月当たりの平均工賃額は、3,000円を上回るようにする。	一人月額平均工賃は、6,333円となり、目標を大きく上回ることができた。
(3)	養護学校、相談支援事業所等との密な情報交換を通して利用希望者の情報を的確に把握し、利用者の増加を図る。	4月当初は6名の利用者でスタートしたが、関係機関との情報交換をととして年度途中に7名が利用に繋がった。

茅ヶ崎市福祉会館事業報告

1 事業の概要

(1) 基本方針

福祉会館の設置目的である「市民の福祉の増進及び福祉活動の育成発展を図る」ことを達成するため、地域に開かれ愛される施設づくりに努めるとともに、平等利用の確保や差別的取り扱いがないよう、利用者の方々の信頼と安心を大切にしながら、心のこもったサービスを提供する。

ア 施設の老朽化が進行するなか、様々な支障が生じてきていることから高齢者や障害者に配慮した対応を行う。

イ 利用者が安心且つ気持ちよく利用して頂くために、会館内外の清掃・整理に努めるとともに、利用者への挨拶の励行等を積極的に行う。

(2) 施設の概要

ア 位置と規模

(ア) 所在地 茅ヶ崎市中海岸二丁目2番42号

(イ) 敷地面積 3,933m²

(ウ) 延床面積 1,852m²

1階 大広間・集会室1・娯楽室・ヘルストロン室・事務室・ボランティアセンター海岸

2階 集会室2・集会室3・集会室4・集会室5・集会室6・集会室7

3階 ホール

(エ) 建物構造 鉄筋コンクリート造3階建

イ 設置年月日 昭和45年5月1日

ウ 休館日 月曜日(祝日のときは翌日)・1月1日から1月4日及び12月28日から12月31日まで

エ 開館時間 午前9時(7月から9月までは午前8時30分)から午後9時まで

2 管理・運営

(1) 職員配置 (平成30年3月31日現在)

職種名	人 員
施設長	1
施設業務員	4 (4)
計	5 (4)

* () は非常勤職員

* 職員は1日3人を基本とするローテーション勤務

- (2) 職員研修 会館業務に必要な知識を再確認するため、茅ヶ崎市福祉会館条例や危機管理マニュアル 及び接遇マニュアル等により、職場内研修を4回実施した。

(3) 利用状況

ア 施設別

区 分	利用可能 日数	利用日数			利用率(%)		
		午前	午後	夜間	午前	午後	夜間
大広間	306	274	299	61	89.5	97.7	19.9
集会室1	306	225	247	26	73.5	80.7	8.5
集会室2	306	212	184	12	69.3	60.1	3.9
集会室3	306	221	209	16	72.2	68.3	5.2
集会室4	306	212	159	48	69.3	52.0	15.7
集会室5	306	228	223	204	74.5	72.9	66.7
集会室6	306	211	257	8	69.0	84.0	2.6
集会室7	306	223	187	7	72.9	61.1	2.3
ホール	306	269	276	97	87.9	90.2	31.7
娯楽室	251	251	251	0	100.0	100.0	0
ヘルストロン	294	294	294	0	100.0	100.0	0

イ 利用者別

区 分		件 数	利用人員
一般団体		1,148	22,176
条例規定による減免団体	1号団体	215	6,455
	2号団体	0	0
	3号団体	高齢者団体	1,123
		障害者団体	169
		社会福祉関係団体	110
		ボランティア団体	498
		小計	1,900
	4号団体	399	9,372
	5号団体	2	240
計		3,664	76,712
個人利用(囲碁・将棋・ヘルストロン)			12,559
合計		3,664	89,271

ウ 施設利用料金減免状況 (単位:円)

区分		申請件数	減免前規定料金	減免額	還 付		収入金額
					件数	金額	
一般団体		480	1,855,470	0	21	27,080	1,828,390
減免団体	1号団体	115	254,280	254,280	0	0	0
	2号団体	0	0	0	0	0	0
	3号団体	775	3,796,110	3,796,110	0	0	0
	4号団体	114	987,620	691,470	10	4,950	291,200
	5号団体	1	9,240	9,240	0	0	0
	小計	1,005	5,047,250	4,751,100	10	4,950	291,200
合 計		1,485	6,902,720	4,751,100	31	32,030	2,119,590

エ 利用者数等の推移

項目	平成27年度	平成28年度	平成29年度
利用者数	86,441人	87,623人	89,271人
利用団体数	3,526件	3,639件	3,664件

オ 利用料金収入の推移 (単位：円)

項目	平成27年度	平成28年度	平成29年度
利用料金	1,767,930	1,999,880	2,119,590

カ 利用状況の概要

福祉会館は、市民の福祉の増進及び福祉活動の育成発展の場として平成29年度は年間306日を開館し、利用者数は延べ89,271人で前年度に対し1,648人、1.9%の増。利用団体数は3,664件で前年度に対し25件、0.7%の増となった。

これは、夜間利用が増加したことから海岸青少年会館の主催事業や利用団体による利用増などが主な要因となっている。

(4) 防災

施設の消防計画に基づき、次のとおり消防訓練を実施した。

実施月日	出火想定場所	参加人員			内 容
		職員	利用者	計	
9月1日	2階湯沸室	5人	25人	30人	地震後の火災を想定し、利用者とともに消防署への通報、水消火器による消火訓練、消火栓による放水訓練及びAEDデモンストレーションを実施。

2月8日	2階 湯沸室	4人	11人	15人	地震後の火災を想定し、避難誘導・消火訓練の実施及び火災防災教育ビデオを鑑賞。
------	-----------	----	-----	-----	--

(5) 利用者からの意見聴取の状況について

福祉会館全利用者を対象とし、平成29年11月1日から11月30日までの約1か月間、(仮称)茅ヶ崎公園体験学習施設の運用方法の参考となるよう、福祉会館に対する満足度、交通手段について意見聴取した。有効回答数221件(男性63件、女性148件、未回答10件)

利用者は70代が最も多く、60代、80代と続き、9割近くが団体で利用している。

会館へは自転車での来館者が最も多く次いで徒歩となっており、近距離の利用者が多い。施設の設備には2割弱の人の不満があるものの9割以上が過ごしやすいと評価している。

主な意見としては、新施設に対する期待や要望、特にヘルストロンの継続を求める声が多かったほか、これまで同様定期的な活動の場の確保を求める声が多く寄せられた。

また、新施設移行に向けた意見交換会が8月、2月、3月に市主催で開かれ、有料化と諸室の使い勝手等について質疑応答や現状維持を望む声が多く寄せられた。

3 平成29年度の重点目標の達成状況と評価

重 点 目 標		達 成 状 況 と 評 価
(1)	施設の老朽化に起因する多発修繕に対し、市と協議をしたうえで利用者の安全に配慮した対応を行う。	自然劣化に伴う不具合に対応するため、利用団体の備品等が保管されている外倉庫の雨漏り修繕、ホールブレイカー修繕等を行い、利用団体が活動しやすいように努めた。
(2)	利用者が安心して利用できるよう、会館内外の巡回巡視を徹底し、事故等を未然に防止する。	利用者の事故等を未然に防止するため会館内外の危険箇所等の把握に努め、ホール床の部分張替えや窓ガラス枠修繕を行った。
(3)	職場内研修を通して、職員の危機管理意識を向上させる。	「危機管理マニュアル」を活用しながらの研修や実際に利用者の負傷や急病人の搬送対応を通じて、職員の危機管理意識の向上に資することができた。
(4)	仮設使用に伴う海岸青少年会館の利用団体に活動の場を提供する。	前年度同様、利用の受入れを行い、子どものリトミック等、13団体が定期的な活動を行っている。
(5)	海岸青少年会館と連携し、高齢者と青少年との交流(世代間交流)を推進する。	海岸青少年会館主催の子ども対象事業(20事業)を当館で実施した。囲碁や将棋教室では当館で活動する利用者が指導にあたるなど、世代間交流の推進に努めた。